

第4部

兵庫の可能性を開花させるための 課題と協働戦略の方向性

概要	1
シナリオ実現に向けた課題群	2
戦略を考えるための基本的視点	13
1 戦略の基本	13
2 兵庫の資源 - 戦略の基盤	13
3 資源を生かす	18
兵庫の可能性を開花させるための協働戦略の方向性	21
1 空間活用 - 空間を活かした活力ある地域を創出	21
2 環境創造 - 自然の恵みを生かして豊かさを向上	22
3 地域自立 - 県民主役の地域づくりの基盤を築く	23
4 つながり再生 - 家族・地域の支え合いを確かなものに	24
5 安全安心 - 誰もが健康で長生きできる環境を整備	25
6 しごと再生 - 生涯現役がかなう社会づくりを進める	26
7 経済活性化 - 世界を先導する科学技術・産業を支援	27
8 人材立県 - 世界に雄飛する兵庫人材を育成	28

第4部 兵庫の可能性を開花させるための課題と協働戦略の方向性【概要】 つながりが生み出す元気で豊かな兵庫（兵庫のつながり・デザイン）

兵庫の可能性 - 俯瞰のためのシナリオ群（第3部）

潮流変化に伴う様々な社会現象の全体像を見渡す中から、シナリオ実現に向けて戦略的に取り組むべき課題群を抽出

取り組むべき課題群と協働戦略の柱立て

- < 基本課題 >
 - 人口減少・偏在化への対応
 - 少子化・超高齢化への対応
 - 様々な面での格差（格差感）の拡大への対応
 - 多元化など世界規模での構造変化への対応
 - 気候変動・資源制約への対応
- < 持続可能な地域構造への転換 >
 - 人口偏在化と地域空間劣化への対応（空間活用を促す仕組みづくり）
 - 生活持続の基盤づくりと自立拠点の形成
 - 空間活用による食料自給率の向上（農に対する関心の高まりへの対応）
 - エネルギー自給率の向上
 - 環境負荷の低い持続可能な地域づくり
 - 地域の自立を促す仕組みづくり
 - 地域資源の再評価と活用
- < 生活の豊かさの向上 >
 - 多層的なつながりの再生
 - 地域で助け合う住まい方の実現
 - 質の高い保健・医療・福祉サービスの提供
 - 豊かさの裏側問題（自殺等）への対応
 - 若者の社会参加・就労支援対策
 - ワークライフバランスの実現
 - 何度でもやり直してできる雇用就業環境整備
 - 地域課題に取り組む社会的起業の育成
- < 世界の中の兵庫の魅力向上 >
 - 競争力の高い産業の育成
 - 兵庫の場所・モノ・サービスの価値向上
 - 世界に開かれた地域づくり
 - 創造的な人材の集積
 - 次代を担う兵庫人材の育成
 - 蓄積された智恵と経験を生かした国際貢献

戦略の柱立て

空間活用

環境創造

地域自立

つながり再生

安全安心

しごと再生

経済活性化

人材立県

多様な主体が協働で取り組む地域の資源を生かして取り組む

兵庫の資源 - 戦略の基盤
 ・様々な文化を受容し育んできた土壌
 ・多様な人材、その経験と技術
 ・交流を支える充実した社会基盤 等

「生かす」「変える」「守る」を見定めて

シナリオ実現のための地域づくり協働戦略の方向性(例示)

空間活用 空間を活かした活力ある地域を創出

- (持続する集落づくり)
 - 校区単位等での生活関連サービスの確保
 - 土地の棚卸しによる集落空間再生ビジョンづくり(交流・連携による支え合いの仕組みづくり)
 - 上下流連携による森林管理の仕組みづくり
 - 村収めを選択した集落に対する生活維持への支援(空間活用の仕組みづくり)
 - 奥山・里山・人里の区分など土地利用の新たな枠組整備
 - 空間再生支援機構による空間活用・住み替え支援
 - 建築士・大工等の連携による空き家活用の促進(暮らしを支える中心地づくり)
 - 圏域の生活を支えるまちなかづくり(病院拠点型など)
- (地域の足となる公共交通の再編)
 - コミュニティバスなど地域主体の公共交通運営の支援(持続する郊外づくり)
 - 郊外の生活関連サービスの集約化・拠点化の促進
 - 減築による住宅と街並みリニューアルでの魅力向上(郊外居住の暮らしの質の向上)
 - 空き地活用型農園整備で身近に「農」のある生活を実現
 - 周辺地の自然再生で自然豊かな生活空間を創出(歩いて暮らせる市街地づくり)
 - 歩きたくなる街づくり、魅力あるオープンスペースづくり
 - 徒歩・自転車優先の街づくり(自転車道等ネットワーク化)
 - 自動車の進入をコントロールする中心市街地の設定

環境創造 自然の恵みを生かして豊かさを向上

- (新たな農の展開)
 - 6次産業化による第一次産業の再生
 - 若年層・壮年層などの移住や就農支援
 - 県民皆農の推進(空き地の農地化と農を学ぶ県民運動)(森から恵みを引き出す)
 - 私有林の集約的管理と森林経営の確立
 - 流域単位の木材コーディネーターの育成
 - 森林カーボンオフセットの仕組み構築(自然エネルギーの利用拡大)
 - 空き地・屋上等を生かした小さな発電所づくり
 - マイクログリッドなど分散型エネルギーの基盤づくり(環境負荷の低い都市・地域空間づくり)
 - 食・エネルギーの自給持続の村づくり
 - 建物の木質化(脱コンクリート)
 - 移動手段の低炭素化(自転車通勤の拡大等)
 - 緑の回廊づくり(すき間・空き地の森林化等)
 - 生活・産業に溶け込むカーボンオフセットの仕組みづくり

地域自立 県民主役の地域づくりの基盤を築く

- (地域づくりの担い手育成)
 - 地域再生人材や空間管理の専門家(レンジャー)の育成
 - 幼少期からの地域学習・体験学習(農業・介護等)の充実(地域づくりを支える基盤の整備)
 - 地域を支える中間支援機関(大学・NPO等)の育成
 - 様々な主体が参画する小さな自治の組織づくり
 - 住民主体の空き空間活用やエリアマネジメントの推進
 - 地域ファンドの仕組みの構築(地域資源の再評価・再編集)
 - 兵庫の集落を歩き巡る「フットパスガイドブック」の作成
 - B級グルメ・SEA級グルメなど食を核にした集客戦略

つながり再生 家族・地域の支え合いを確かなものに

- (地域のつながりの再生)
 - 空き空間を生かした「たまり場」「寺子屋」等の開設
 - 地域ぐるみでの子育ての仕組みづくり
 - 地域で高齢者を見守るしくみづくり(多様な住まい方を支えるしくみづくり)
 - 多世代居住型共同住宅整備等による隣居・近居の促進
 - 地縁・血縁によらない多様な暮らし方を支える住宅整備(地域と関係性をもった人づくり)
 - 学童期から社会参加意識を学ぶ地域教育プログラム
 - 地域の高齢者や女性による子育て支援NPOの育成

安全安心 誰もが健康で長生きできる環境を整備

- (健康寿命の向上)
 - 日常生活圏におけるプライマリーケアの確保
 - 高齢期に至るまでの健康づくりプログラムの普及促進
 - ターミナルケアの充実による家庭での看取り促進(ユニバーサル社会づくり)
 - 障害者の自立生活支援・就業支援の充実
 - バリアフリーの推進など地域のユニバーサルデザイン化(安心して結婚・出産・育児ができる環境整備)
 - 育児としごとが両立できる制度整備
 - 安心して子どもを産むことができる保健医療体制の確保(安心を共有する仕組みづくり)
 - 相談機能の充実による自殺やひきこもり予防
 - 関係機関が連携したひきこもり等からの社会復帰の促進(防災・防犯力の高い地域づくり)
 - 災害・犯罪に強い地域づくり(地域の危機管理能力の向上)
 - 防災・減災の基盤づくり(土砂災害・大規模地震対策等)
 - (食の安全安心の確保)
 - 認証食品の流通促進など地産地消の推進

< H22 にさらなる議論を積み重ね戦略的展開へ >

しごと再生 生涯現役がかなう社会づくりを進める

- (何度でも新たなしごとに挑戦できるしくみ)
 - 地域の企業等と連携し就業と直結した職業訓練の実施(若年期からの目的意識を持つ教育システム)
 - 若者の就労意識を高める職業体験プログラムの普及(多様な働き方ができる社会づくり)
 - 就業形態を柔軟に選択できる雇用環境整備
 - 女性が仕事をやめないで出産・育児できる環境づくり(生涯現役が実現する社会デザイン)
 - 高齢者の第二就業・生きがい就業支援(マッチング)
 - 職業経験を地域活動や就業につなげるしくみづくり(多様なしごとの創出)
 - 地域課題に取り組むコミュニティ・ビジネスの育成

経済活性化 世界を先導する科学技術・産業を支援

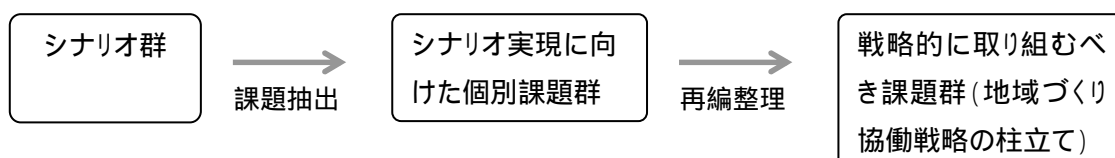
- (次世代産業の育成)
 - 健康・医療・介護・環境を核にした新産業の創出
 - 兵庫の強み・資源を生かす産業創出拠点の形成(元気な中小企業づくり)
 - 中小企業の海外市場への直結化(マッチング支援など)
 - 身近な課題解決から仕事を生み出す社会的起業の育成(兵庫の魅力を世界のブランドに)
 - 兵庫ブランド戦略(地域のブランド化と多言語での発信)
 - 兵庫の強みを生かしたツーリズムプログラム整備(多文化共生の地域づくり)
 - 外国人学校と連携した外国人が暮らしやすい地域づくり
 - 留学生の県内企業就職促進(人の立地戦略)
 - 著名な研究者を核にした研究開発拠点の形成
 - 文化面の都市機能(都市装置とソフトウェア)の充実

人材立県 世界に雄飛する兵庫人材を育成

- (人材育成戦略)
 - 起業が奨励される環境づくり(学生ベンチャー育成等)
 - 国・公・私個性を生かした兵庫ならではの教育の展開
 - 創造力を伸ばす人材育成(問題解決能力の向上等)(兵庫の人材を世界の人材に)
 - 外国語教育と若武者修行による国際人材の育成
 - 課題先進県として兵庫人材の国際貢献の推進
 - 兵庫シニア海外協力隊の派遣(兵庫の知恵と経験が課題解決に貢献)
 - 兵庫に集積する国際機関を通じた世界の課題解決支援(世界を先導する先進的取組モデル)
 - アジア・世界の見本になる先駆的取り組みの展開

シナリオ実現に向けた課題群

- ・ 潮流変化に伴って生じる様々な問題は互いに影響を与え合っている。兵庫の可能性を開花させるためには、個々の問題に対症療法的に応じているだけでは不十分である。
- ・ 兵庫の可能性を俯瞰するために描いたシナリオ群も互いに結びついている。その実現に向けては、相互の関連を考えながら、戦略的に取り組みを展開していく必要がある。
- ・ 各シナリオの実現に向けた個々の課題を抽出し、横断的に再編整理する中から、シナリオ群の実現に向けた戦略的な取組の方向性を考える。



<シナリオ実現に向けた個別課題群>

1 農山漁村の小規模集落の姿から考える

<シナリオ群>

- ・ 大阪・神戸から住みに来る二地域居住が大きく増加
- ・ 高速の情報通信ネットワークを使って仕事をする人が新たに居住者として定着
- ・ 農を目指す若者が大阪・神戸の街中から移住
- ・ 二地域居住をする人は、狩猟、農作業、陶芸などをして、ゆったりと時間を楽しむ
- ・ 村の活動に外から来た人も加わる仕組みが徐々に整う
- ・ エネルギー自給率 50%が実現
- ・ 食料自給率 80%が実現
- ・ 空き家を活用した大学サテライトが集落の魅力を発信
- ・ 外国人観光客も含め、交流人口が増加
- ・ 集落点検と「土地の棚卸し」が進み、集落空間がきちんと管理されている
- ・ 住民が話し合っ「村収め」する場所も
- ・ 地域空間の管理活用を担う空間管理機構が発足
- ・ 上下連携での森林管理の仕組みが整う

<シナリオ実現に向けた個別課題群>

(二地域居住を促進する環境づくり)

- ・ 二地域居住を促す環境整備(受け入れ体制整備、長期休暇を取りやすい就業環境整備等)
- ・ 二地域居住者のネットワークづくり
- ・ 二地域居住の増加を想定した集落運営ルールの見直しと明文化
- ・ いつでもどこでも誰もが簡単に情報ネットワークにつながる環境の整備

(空き地活用を促すマッチングの仕組みづくり)

- ・ 空き家情報等の発信
- ・ 大学・研究機関等と課題を抱える地域とのマッチングの仕組みづくり
- ・ 大学等が拠点づくりを行う際の支援

(就農支援の仕組みづくり)

- ・ 新規就農者の育成と就農支援(マッチング等)の仕組みづくり
- ・ 狩猟免許の取得促進制度
- ・ 農業の現地サポーター制度の整備
- ・ 集落営農法人の創設支援と外部からの担い手補給
- ・ 農地の有効活用を促す仕組みづくり

(森林再生の取組)

- ・ 民有林の公有林化
- ・ 木材コーディネーターの育成
- ・ 木質資源の活用促進(林業の活性化)

(自然エネルギーの利用拡大に向けた仕組みづくり)

- ・ 自然エネルギーを生かしたミニ発電、マイクロ発電の促進制度の整備
- ・ 木質利用のストーブ普及

(地域再生の人材育成と体制整備)

- ・ 地域再生人材の育成
- ・ 集落点検マニュアルの整備
- ・ 支援機関となる空間管理機構の整備
- ・ 村収めを選択した集落に対する生活支援の仕組みづくり
- ・ 家屋、田畑、森林の寄付を引き受け、管理する組織づくり
- ・ 流域単位の土地利用の新たな枠組みづくり
- ・ ふるさと納税制度の拡充

(地域の魅力情報の発信の仕組みづくり)

- ・ 外国語による集落情報の発信
- ・ 農家民宿、農家レストランの拡大促進

2 多自然地域の中心都市の姿から考える

<シナリオ群>

- ・ これからのまちのあり方について行政・住民・企業の合意形成が図られている
- ・ 駅前等へまちなか機能が集約化・拠点化されている
- ・ 都市周辺部の持続が困難な地域ではまちを縮合していく動きが加速
- ・ 複雑化する地域課題に対し地域住民が力を結集する新たな動きも
- ・ 旧町役場、廃校等の公共施設等の空き空間の活用が促進
- ・ 住民主体の交通インフラ整備が進む
- ・ 新たな地域づくりの担い手が参画

<シナリオ実現に向けた個別課題群>

(まちなか機能の集約化・拠点化)

- ・ 都市の中心地のテーマの明確化、コンセプトづくり
- ・ 総合病院等、生活の基幹施設の立地を推進する仕組みづくり
- ・ 集客力のあるオンリーワンショップの育成
- ・ 商店以外のサービス機能の導入による商店街の魅力向上
- ・ シャッター街化した商店街を普通の街並みに変えていく仕組みづくり
- ・ 信用力のある第三者のサブリース等による不動産の流動化促進(所有と利用の分離)
- ・ 空き不動産の売り手・買い手のマッチングの仕組みづくり

(住民の足の確保)

- ・ 高齢者等の生活を支えるコミュニティバスや宅配サービスの整備等、疎住化への対応
- ・ 既存のバス路線との共存策(事業採算性を確保する仕組み)

(地域住民が力を結集する仕掛けづくり)

- ・ 地域マネジメントに係る地域住民のビジョンの明確化
- ・ 地域づくりの事業をプロフェッショナルとして企画・実践する人材の育成
- ・ 地域に入り込んで事業を成功に導くコーディネーター、フォロワー(支援者)の育成
- ・ 地域の履歴・現状・将来像に関する行政・住民・企業間の情報共有

3 郊外のニュータウンの姿から考える

<シナリオ群>

- ・ 人口は30年前の7~9割に
- ・ 若年世代が高齢者と住み替わり、世代バランスのとれた住宅街となる
- ・ 集合住宅の更新時期が到来し、減築か廃棄かの選択を迫られる
- ・ 空いた隣地を取得し、二戸で広く住むようになっている
- ・ 広い庭でガーデニングやファームングを楽しんでいる
- ・ ニュータウン内に働く場ができ、職住近接が実現して昼間も賑わいのあるまちとなっている
- ・ ニュータウン内外を移動できる交通を住民が主体的にデザイン、運営している
- ・ 地域の魅力を高めるための住民による地域経営がなされている
- ・ 自給持続可能なエコタウン

<シナリオ実現に向けた個別課題群>

(世代バランスの取れた住宅街の形成)

- ・ 若年世代による住宅取得を促進するための経済面の支援
- ・ 若年世代にとって魅力的な住宅にするための高質化を促進する仕組みづくり
- ・ 高齢者の駅前居住の促進
- ・ 転出入希望者のマッチングの仕組みづくり
- ・ 近居・隣居を促す仕組みづくり

(郊外居住の質の向上)

- ・ 税金・手数料の減免など隣地の取得を促進するしくみづくり
- ・ 地域ぐるみで取り組むガーデニング・ファームングの普及
- ・ 所有と利用の分離による空き地活用を促進する仕組みづくり

(職住近接の街づくり)

- ・ テレワークの普及に向けた住民・企業双方への支援
- ・ 地域課題解決型の社会的起業を普及させる仕組みづくり

(住民主体の公共交通運営)

- ・ ミニ公共交通の運営ノウハウの普及や資金面での支援
- ・ ミニ公共交通のデザイン・運営に関する地域住民間の合意形成

(住民主体の地域経営)

- ・ 地域経営への参画に係る住民個々の気運醸成
- ・ 住民主体の地域経営を支援するコーディネーターの育成

(自給持続の街づくり)

- ・ バイオマス活用に向けた近隣の里山地域との連携
- ・ 太陽電池パネルなど設備導入のための支援
- ・ 自然エネルギー活用に適した都市設計のあり方の提示

4 瀬戸内臨海部の都市の姿から考える

<シナリオ群>

- ・ 過密居住から適住人口へ
- ・ タワー型マンションなど垂直化するコミュニティ
- ・ 超高齢住宅の出現
- ・ 駅前や街路などが公共的な空間として重要に
- ・ 都市の快適環境づくり
- ・ 低炭素な省エネ型地域構造への転換
- ・ 業務機能や工業機能の集約化が進展

<シナリオ実現に向けた個別課題群>

(適度な集住への誘導)

- ・ 人口集中を緩和するための世代による住み替え循環のしくみ
- ・ 低・未利用地の再開発促進策と駅を核にした高密なまちへの視点

(高層マンションにおけるコミュニティ醸成)

- ・ 垂直型コミュニティと既存コミュニティとの融合に向けた仕掛け・場づくり支援
- ・ タワー型マンションへの転居者に対する地域活動ガイダンスなど参画支援

(超高齢住宅への対応)

- ・ 高質な高齢者対応型共同住宅の促進策
- ・ 超高齢共同住宅への地域の見守り支援
- ・ 高齢者のための医療福祉・買い物・宅配等の充実
- ・ 超高齢共同住宅への若壮年層の入居支援

(公共空間の充実)

- ・ 交流や創造の装置、コミュニティの醸成空間としての中心地の再構築
- ・ 街路空間の自動車から歩行者・自転車への再配分(広場・カフェ整備、車線の歩道化等)
- ・ 歩行者動線の再構成と商店街戦略の連携
- ・ 本業回帰による商店街の物販機能充実

(快適な都市環境づくり)

- ・ 空き地や壁面、屋上を活用した緑の拡大へのインセンティブ
- ・ 都市を流れる風を妨げない道路や建物整備のガイドラインづくり

(低炭素な都市・地域構造への転換)

- ・ 電気自動車・バイク・自転車用の充電スタンドなどインフラの先導的整備
- ・ 自動車迂回路の整備など中心地での公共交通や自転車利用の促進
- ・ カーシェアリング、ドライブシェアリング事例集や普及指針の作成
- ・ コミュニティサイクルの社会実験
- ・ 高断熱住宅・ビルの開発と普及促進、高効率エネルギー利用へのインセンティブ
- ・ 太陽光・小型風力等分散発電の拡大とマイクログリッドによる蓄電・利用

(用途地域の柔軟な運用)

- ・ 用途地域の柔軟運用による空き地の活用(業務ビルの住宅転用、植物工場化など)
- ・ ものづくり地域での住と工の区分による両者の調和的共存

5 あるものを守り活かす地域の姿から考える

<シナリオ群>

- ・ 農林水産業が再び脚光を浴び、地域経済が活性化している
- ・ 多様な生物と共生する自然環境が活かされている
- ・ 美しい景観が保存されている
- ・ 有形無形の歴史・文化遺産が大切に継承されている
- ・ 様々な地域資源がネットワーク化され、新たな付加価値を生み出している

<シナリオ実現に向けた個別課題群>

(農業の活性化)

- ・ 農業を主な生計手段としていない農家の農地やマンパワーを有効活用する仕組みづくり
- ・ 技術習得や資金・農地の確保等のサポートを通じた新規就農支援
- ・ 農林水産品のブランド力強化による消費拡大・価格安定
- ・ 住民起業など小さなビジネス立ち上げの支援

(林業の活性化)

- ・ 持続的な森づくりのための効率的な森林管理の仕組みづくりや担い手の育成・確保
- ・ 上下流連携による地域ぐるみの森林・漁場涵養

(生態系サービスの活用)

- ・ 生態系サービスの可視化
- ・ 自然資源を守り育てながら利用する仕組みづくり

(地域資源の発掘・継承)

- ・ 潜在する地域資源の再発見と掘り起こし
- ・ 地域資源の発掘・継承の取組への地域住民の参画
- ・ あらゆる地域資源の物語化、情報発信

6 地域の自立の姿から考える

<シナリオ群>

- ・ 地域リーダーの差が地域活力の差につながる時代に
- ・ 地域づくりをプロデュースする専門的な人材の育成が進む
- ・ 住民の地域への参加意識を育む教育プログラムが実施される
- ・ 企業の地域づくり活動への参画が進む
- ・ 地域団体の横の連携が進み、住民主導の地域運営が本格化
- ・ 地域コミュニティの企業化が進む
- ・ 地域づくりを支える小さなファンドが各地にできる
- ・ 地域内での資金循環を促す仕組みが整う
- ・ 危機管理・防犯を基点に「共助」の取り組みが拡大
- ・ ウェル・マネージ（みんなでよく考える）の地域運営ルールが定着
- ・ 地域特性に応じたそれぞれの「地域力」向上をめざす取組が拡大
- ・ 社会資本の「選択」と「集中」が進み、あるものを「使いこなす」ように。
- ・ 地域による社会資本の共同管理が拡大
- ・ いつでもどこでも誰もが簡単に情報ネットワークにつながれる環境が整う。
- ・ 自立的な圏域形成を求める動きから、都市間・地域間の連携が進む
- ・ 地域の競争力を高めるため、県境を越える広域連携の取組が拡大

<シナリオ実現に向けた個別課題群>

(地域づくりの担い手育成)

- ・ 大学による地域再生人材育成拠点づくり
- ・ 地域づくりに関する対象に応じた多彩な学習プログラムの提供
- ・ 企業の社会貢献・地域参加を促す仕組みづくり（インセンティブの付与など）

(参画と協働の裾野を広げる取組)

- ・ シティズンシップ（市民性）教育の導入
- ・ 地域をフィールドとした体験学習の促進と学習プログラムの質の向上

(住民主体の地域経営)

- ・ 自治組織づくりの支援（補助金統合化、権限委任、事務局整備に係る初動経費補助等）
- ・ 自治体における地域担当職員制度の整備
- ・ コミュニティビジネスの促進（地域における金儲けの促進）
- ・ まちづくり会社制度の創設とコミュニティベースの起業支援
- ・ 地域を支える中間支援組織の育成

(地域を支えるファンドづくり)

- ・ 寄付税制の整備
- ・ コミュニティバンクの創設支援

(地域力を高める仕掛けづくり)

- ・ 危機管理を軸にした地域で支え合う仕組みづくり
- ・ 地域運営ルールの見直し
- ・ 気軽に集まれるたまり場づくり
- ・ 地域ごとの将来ビジョンづくりの支援
- ・ 地域共通の取組目標となる地域力指標の開発

(住民主体の社会資本運用)

- ・ 地域ニーズに応じた公共施設の用途転換と多目的化・多機能化の促進
- ・ 管理放棄する社会資本の選別基準整備
- ・ 住民団体に対する指定管理の拡充
- ・ 地域主体のアセットマネジメントのマニュアルづくり

(開かれた情報通信基盤の確立)

- ・ 高速通信回線の無料開放
- ・ ICTリテラシーの向上

7 暮らしの豊かさから考える

<シナリオ群>

- ・ 人や地域とのつながり、ゆとりある生活が豊かさの源泉に
- ・ ゆるやかなつながりのなかで支えあう暮らし方が広がっている
- ・ 結婚し、安心して子どもを産み育てる環境が整っている
- ・ 自らの生きがいや自己実現を目指す時間が増加している
- ・ 所有から利用への変化や質的な豊かさこだわった消費が増える
- ・ 年齢、性別、障がい、文化などに関わりなく、地域社会の一員としてお互いに支えあうユニバーサル社会が実現している
- ・ 確かなセーフティネットが暮らしを支えている

<シナリオ実現に向けた個別課題群>

(つながりを育む場づくり)

- ・ 祭りや伝統行事などに高齢者から若年層まで幅広く多世代が参加できる場づくり
- ・ 地域活動に参加しない若年層や勤労者など地域活動に巻き込む場づくり
- ・ 団塊世代と地域ボランティア活動のマッチングシステム
- ・ NPOの求人システムの構築

(多様な住まい方の促進)

- ・ 世帯が異なる者が共同生活を営むコレクティブハウスやシェアハウスなどの建設促進

(結婚・出産を支える仕組みづくり)

- ・ 結婚を望む人たちの出会いの場の設定
- ・ 周産期医療体制や小児医療体制の確保
- ・ 幼児期の保育所や児童期の学童保育の充実
- ・ PTAや学校の連携、高齢者や若者を巻き込んだ地域の子育ての充実
- ・ 出産後、子育て中の女性のしごとへの復帰支援

(企業の社会貢献の促進)

- ・ ワークライフバランスに取り組む企業を社会的に評価するシステムの構築
- ・ 環境負荷に配慮した商品を提供している企業を社会的に評価するシステムの構築

(ユニバーサル社会の実現)

- ・ 総合的な学習の時間を活用したユニバーサルデザイン等の学習や多文化共生教育の充実

(確かなセーフティネット)

- ・ 身近な場所で手軽にできる企業と連携した職業訓練の実施
- ・ 正規・非正規間の賃金格差の解消
- ・ 原因が多岐にわたる自殺対策への総合的な取組
- ・ 児童虐待や配偶者への暴力を地域で監視する仕組みづくり

8 地域のしごとと働き方を考える

<シナリオ群>

- ・ 年齢に関係なく NPO や社会的起業によるやりがいしごとや地域の資源を活用した住民起業が広がっている
- ・ デザインやコンテンツなどものづくり、サービスの価値を高める仕事が増え、就業者不足を補う生産性の向上も進んでいる
- ・ 疾病を予防する医療、保健や健康に関するさまざまなサービスが生まれている
- ・ 高齢社会に対応したきめ細やかなサービスや機器が生まれている
- ・ 癒し、エコ等、潤いある生活を求める多様なニーズが生まれている
- ・ 自らのライフステージに応じた働き方が選択できるようになり、高齢者、女性、障がい者をはじめ誰もが生涯現役で力を発揮している
- ・ 実践的な職業訓練や技術承継が行われ、何度でも就職に挑戦できる環境が整っている
- ・ 若年期から目的意識を持つための教育システムが確立している

<シナリオ実現に向けた個別課題群>

(NPO・社会的起業の活性化)

- ・ NPO や社会的起業を人的・資金的に支える仕組みづくり
- ・ 中間支援 NPO の機能強化
- ・ 社会的起業の育成と県内への呼び込み

(付加価値を高める仕組みづくり)

- ・ ものづくり産業などオンリーワン技術を創出のための仕組みづくり
- ・ 優れた技術やノウハウを持つ企業を集積する仕組みづくり

(充実した保健・医療サービスの提供)

- ・ 医療機関内外での診療情報や健康診断情報の共有化
- ・ 個人に対応した健康プログラムの開発
- ・ 高齢者向けサービスの技能を持つ人材の育成
- ・ 高齢者対象のしごとを魅力的なものとする仕組みづくり
- ・ 歩行支援機器や介護施設での移乗支援機器の普及の仕組みづくり

(ライフステージに応じた働き方の実現)

- ・ 多様就業型ワークシェアリングの取組の拡大
- ・ 高齢者雇用確保措置の一層の推進
- ・ 法定雇用率の達成など障がい者の就業機会の拡大に向けた取組
- ・ 正規・非正規間等の賃金格差の解消

(職業に関わる技能・経験の継承)

- ・ 身近な場所で手軽にできる企業と連携した職業訓練の実施
- ・ 暗黙知や経験を体系化し伝えていく方策
- ・ 座学と実践的な研修の組み合わせによる長期的な人材育成

(目的意識を育む教育システム)

- ・ 中学生時の長期インターンシップ制度が可能となるような教育システム
- ・ 学生時における職業訓練や就業体験の機会の確保

9 高齢者の視点から考える

<シナリオ群>

- ・ 生き生きと元気に活躍している高齢者が増加し、健康寿命が伸びている
- ・ 長い人生に備え、自らの人生設計に基づき若年期から様々な活動に取り組む人が増えている
- ・ 高齢者を支えるさまざまなサービスが展開している
- ・ 経験や技能を生かして働く高齢者が増加している
- ・ 日常の健康から看取りまで安心の医療サービスが提供されている
- ・ お互いが支えあって暮らす住まい方が広がっている
- ・ 地域のつながりが安全安心を確保している
- ・ 多世代のつながりをつくる場が生まれ、地域の活性化につながっている
- ・ 地域ぐるみで子どもを育てている

<シナリオ実現に向けた個別課題群>

(健康寿命の向上)

- ・ 高齢者像の再定義(活躍する高齢者像の発信)
- ・ 生活習慣病の罹患を減少させる取組の展開
- ・ 高齢者の健康づくりの支援

(若年期から様々な活動に取り組める就業環境整備)

- ・ 企業における長期休暇制度の導入
- ・ キャリアアップに対応した実践的な研修システムの構築

(高齢期の安心を支える基盤づくり)

- ・ 介護人材の育成
- ・ 介護をする家族を支援する仕組みづくり
- ・ 所得制限や担保対象など制限が多い現行リバースモーゲージ制度の見直しと制度の普及
- ・ 定年延長、継続雇用など高齢者雇用確保措置の推進
- ・ 地域での高齢者のしごとの場づくり

(安心の医療サービスの提供)

- ・ 医療偏在の解消、総合医の養成
- ・ 終末期における在宅、施設での医療体制の充実

(多様な住まい方の促進)

- ・ 近居や隣居の住み方の支援
- ・ 世帯が異なる者が共同生活を営むコレクティブハウスやシェアハウスなどの建設促進

(地域の結びつきの強化)

- ・ 地縁団体やNPOなど地域で子ども、高齢者など社会的弱者を見守る体制の確立
- ・ 祭りや商店街行事など高齢者から若年層まで幅広く多世代が参加できる場づくり
- ・ 福祉施設や学校の食堂施設の共有など、施設を活用したつながりの場づくり
- ・ 学校やPTA、地域住民が連携した地域の教育力の向上

10 多文化共生で暮らす姿から考える

<シナリオ群>

- ・ 経済のグローバル化に伴い、しごとの場を求める外国人県民が増加する
- ・ 住宅、学校、教会等の充実した生活基盤が魅力となり、地域に定着する外国人県民が増加
- ・ 文化の違いを乗り越えて、共に暮らしやすい地域づくりが進んでいる
- ・ 兵庫に暮らす外国人県民が海外とのネットワークの結び目になる
- ・ 兵庫の魅力が世界に発信され、兵庫を訪れる海外からの観光客が増加する

<シナリオ実現に向けた個別課題群>

(外国人が暮らしやすい地域づくり)

- ・ 兵庫を海外の人々に選ばれる「魅力ある地域」にする取組
- ・ 科学技術基盤を活用した外国人県民の活躍の場の提供
- ・ 外国人県民との共生に向けた人々の意識の改革
- ・ 外国人県民の子どもに対する学校や地域での教育分野でのサポート
- ・ 外国人学校を核としたまちづくり
- ・ 病院等、外国人県民の安全・安心を支える基盤の充実
- ・ 日常生活を支える外国人県民向け相談機関の充実
- ・ 同じ地域の中で、共に暮らしていくコミュニティづくり
- ・ すべての住民の相互理解に向けた啓発やNPOの活動支援
- ・ 留学生の県内での就業支援
- ・ 帰国した留学生が、母国と日本の橋渡しとなるネットワークの構築

(世界に向けた兵庫の魅力発信)

- ・ 兵庫まるごとブランド戦略の推進
- ・ 世界遺産や震災復興の経験等、オンリーワン観光資源の活用
- ・ 地域資源を観光資源に繋げる取組
- ・ ヘルスツーリズム、デスティネーションリゾート等、ニューツーリズムへの対応
- ・ 映画等のロケ誘致による国際観光客の呼び込み

1.1 フロンティア技術と産業の姿から考える

<シナリオ群>

- ・ 経済活動はアジアを中心に世界との一体化がより進んでいる
- ・ 先端科学技術分野における研究開発が、兵庫の重要な役割となり、豊かな労働資源を有するアジア諸国と“タテの連携”が展開される
- ・ 開発された新技術の実用化や事業化などを通じて、広く世界と“ヨコの連携”が展開される
- ・ 小さな会社が独自の魅力やネットワークを駆使し、世界を舞台に活躍している
- ・ 世界的な需要の高まる環境分野に取り組む企業が増加し、国際的な「緑の産業クラスター」が形成される
- ・ 「先端科学技術」のみならず、地域資源を活かした産品、安全安心の農産品が世界から高く評価され、地域が丸ごとブランド化されている
- ・ 全ての企業が環境問題に配慮した産業活動を展開している

<シナリオ実現に向けた個別課題群>

(これまでの蓄積を生かした産業と人材の集積促進)

- ・ 陸海空の交通アクセスの活用と質の向上
- ・ 先端科学技術分野の研究開発機関の立地を生かした産業クラスター形成の促進
- ・ 先端科学技術分野の研究成果の産業利用など実用化の促進
- ・ クラスター形成のための企業・研究機関のコーディネートなど様々な支援機能の充実
- ・ 研究機関を生かす研究者等の高度人材集積の促進

(環境産業の育成)

- ・ 環境先進地域としての兵庫の積極的アピールによる魅力の世界的発信
- ・ 環境関連企業の兵庫での立地を促す仕組み
- ・ 産学官の連携を総合的にコーディネートする枠組の充実
- ・ 環境ビジネスに役立つ技術・商品開発、新たな事業モデル開発、販路開拓の支援

(中小企業の付加価値向上)

- ・ 中小企業によるオンリーワン技術の確立支援と知財対策
- ・ 伝統技術と学生のコラボレーションなど地場産業の付加価値を高める仕組みづくり

(海外ニーズに対応した地域ブランド化)

- ・ 海外市場のニーズと県内企業のビジネスマッチングとフォローアップの仕組みづくり
- ・ 県内農林水産品の高付加価値化・ブランド力強化と世界に向けた情報発信
- ・ 世界に通用する兵庫の安全安心基準づくり

(企業の環境配慮を促す仕組みづくり)

- ・ 環境保全効果の定量的測定と情報開示の仕組み
- ・ 環境負荷に配慮した活動を行う企業を社会的に評価する仕組み

1.2 人材立県兵庫が内外の課題解決に貢献する姿から考える

<シナリオ群>

- ・ 豊かな心や創造性を育む学校教育が地域・家庭と連携して展開され、地域はもとより世界に貢献する人材が育っている
- ・ 活躍の場を世界に求め、多くの兵庫人材が世界に向けて羽ばたいている
- ・ 先導的な取組を推進してきた防災分野で世界に貢献している
- ・ 環境分野における積極的な取組が注目を集め、世界から兵庫の技術や取組実績の普及が求められる
- ・ 県内 NPO や小さなグループが世界の現地団体との結びつきを強め、農業をはじめとする様々な分野で課題解決に取り組んでいる
- ・ 兵庫が取り組んできた人材育成のしくみが、世界の教育力向上に役立てられる

<シナリオ実現に向けた個別課題群>

(創造性を育む人材育成)

- ・ 兵庫ならではの体験学習の充実
- ・ 特色ある学校づくりの推進
- ・ 地域に開かれた学校づくりへのさらなる取組
- ・ 地域において学校を支える取組の推進
- ・ 社会起業家を育成する県内大学の取組支援

(世界に雄飛する人材育成)

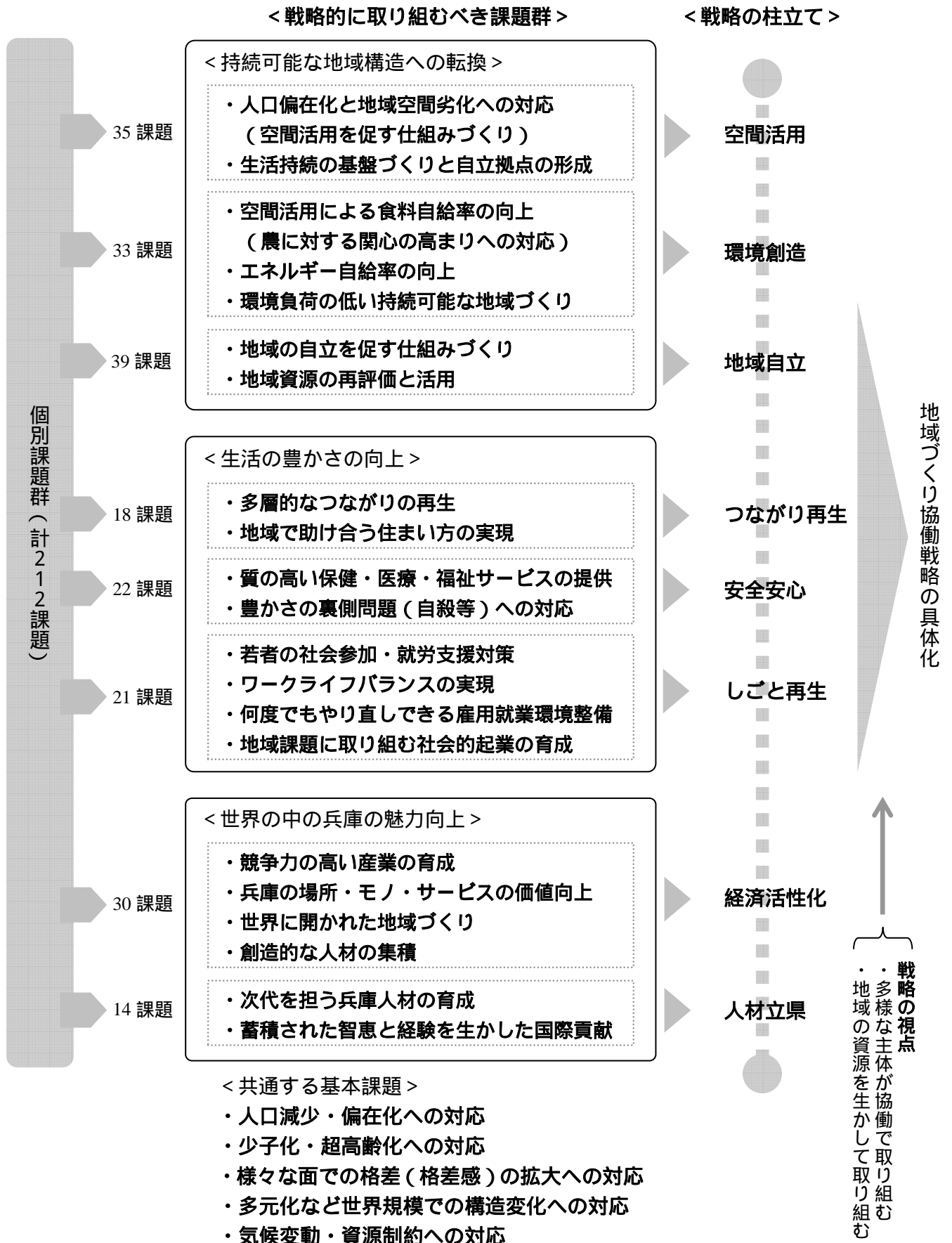
- ・ 子どもが外国で学ぶ機会の確保
- ・ 海外の学校と連携した学生交流の拡大
- ・ 外国語教育の充実

(兵庫の強みを生かした国際貢献)

- ・ 研究機関、国際機関の集積を生かした海外への防災・減災支援
- ・ 県内国際防災関連機関の連携強化
- ・ 兵庫の環境技術の新興国への移転の仕組みづくり
- ・ 県内国際環境関連機関の連携強化
- ・ 国際貢献や交流の促進を目的とする NPO の活動支援
- ・ 安全・安心の農業の技術やシステムの確立

< 戦略的に取り組むべき課題群 >

- ・ 個別課題群（計 212 課題）を横断的に再編整理すると概ね 8 つの課題群に分類できることから、これを戦略的な取組の柱立てとする。



戦略を考えるための基本的視点

1 戦略の基本

<多様な主体が協働で取り組む>

- ・ 取り組むべき課題群が相互に関連しているため、単一の切り口からいくら課題解決の努力をしても、根治的な解決に結びつかないことが見えてきた。
- ・ 社会全体の担い手、支え手が減っていく中で、地域自らが方向性を決め、立ち上がることによってしか、解決し得ない問題も今後増えていく。
- ・ すでに兵庫県では「参画と協働」による政策展開を県政の機軸としているが、今後一層、地域住民、市町、団体、NPO、企業、大学等の様々な主体と、課題に応じた協働のあり方を模索しながら、ともに取り組んでいくことが不可欠である。

(県と市町の役割分担について)

地域課題の解決に向けては、県と市町の適切な役割分担と連携が不可欠である。

県にとって市町は対等のパートナーであり、基礎自治体である市町が考える地域づくりの方向性と調和する形で効果的に県の施策が実施されるように、施策立案段階から積極的に情報共有を図り、ともに取り組む関係づくりを進めることが必要である。

一方、人口減少社会の到来、世界規模での構造変化など、時代潮流が大きく変化する中で、地域空間の劣化、雇用の不安定化など、単一市町では対応が困難な問題が増加している。複数市町の連携による対応が期待されるとともに、県に対しても、広域的・包括的な視点から、地域社会の変化を先取りした積極的な施策展開を行うことが求められている。

<地域の資源を生かして取り組む>

- ・ 「日本の縮図」とも呼ばれる兵庫。広大な県土に多様な地域を擁し、長い歴史に培われた資源の宝庫である。この資源を生かし、個性ある地域づくりを進めることが、地域の生き残りを図る上で必須の条件となる。
- ・ 時代潮流の大きな変化の中にある今だからこそ、地域のこれまでの歩みを振り返ることも大切である。地域の成り立ちや「空間の履歴」を地域住民が共有するところから、地域の将来像を考えていく必要がある。

2 兵庫の資源 - 戦略の基盤

- ・ 兵庫県は、かつての摂津（神戸・阪神）、播磨、但馬、丹波、淡路の5つの国からなり、これらの地域が織りなす多様性は「日本の縮図」と称される。
- ・ 自然景観、食材、歴史文化、伝統芸能等の魅力にあふれた日本海側や中山間地域。世界最先端の科学技術や産業が息づく瀬戸内海の臨海地域。兵庫県が持つ多様性が織りなす多彩な顔の魅力が兵庫の特徴である。
- ・ また、ふるさと兵庫は多くの先人たちの営みの積み重ねの上に成り立っている。
- ・ 長い歴史の中で、それぞれの地域で、多彩な人々が営みを重ねてきた。明治の神戸港開港以降は、世界に開かれた窓口として、多様な外国人と文化を受け入れ、わが国の文化、暮らしを先導し、日本を変えていった地域である。

(1) 歴史から見た兵庫の姿

(様々な文化を受け入れ育んできた土壌)

世界に開かれた兵庫

- ・ 古くは源平時代の日宋貿易に始まり、幕末の神戸港開港以来、世界に開かれた窓口となって、新しく良いものを素直に評価し、受け入れる柔軟性と先進性を持つ。
- ・ 例えば、ロシア革命の混乱から逃れてきたロシア人を受け入れ、洋菓子を紹介した。また、ヨーロッパからパン職人が来日し、欧風パンを日本に定着させた。こうした伝統が現在に至り、「神戸スイーツ」として全国に確たる地位を築いている。
- ・ また、神戸・阪神間に生まれた近代的な芸術、文化、生活様式と時代の雰囲気は阪神間モダニズムと呼ばれ、西洋文化の影響を受けながら、優れた芸術文化と高質な生活感を生み出した。
- ・ 東京・鹿鳴館のような急激な西欧化、西欧文明をそのまま移入した文化ではなく、日本人、神戸・阪神間の生活様式に合わせた地域固有の文化であり、この地域は住みたい街として全国有数の地域となっている。
- ・ 神戸の南京町は日本の三大中華街の一つである。神戸華僑はこの一画に集住するよりも、市内各所に居住し、地域社会と良い関係を築いて溶け込んでいる。
- ・ 様々な宗派の教会等宗教施設、多種の外国人学校が立地するなど、多様な人と文化を受け入れ、共生する懐の深さは、異なるものの見方、考え方に触発されることで新たなものが生み出されることを考えると、これからの社会を築く新たな力を生み出す源になるといえる。

豊かな芸術文化

- ・ 淡路島の国生み伝説に始まり、古墳の数は全国一、遺跡数も二位と、兵庫は考古学の宝庫でもある。
- ・ 多くの近代文化が神戸から全国に広がっていった一方、古くからの酒づくりをもとにした文化、農村歌舞伎の数の多さと県内各地で演じられる薪能、海外にも広く知られる淡路人形浄瑠璃など、地域に根ざした伝統文化も大切に継承されている。
- ・ こうした文化の歴史と厚みは、現在、全国的に評価の高いピッコロ劇場、地域に根ざしながら内外の優れた音楽で人気の高い芸術文化センター、美術の殿堂である芸術の館へと受け継がれ、芸術文化立県ひょうごを支えている。
- ・ 文化が人の心を豊かに育み、人間形成に資することを考えると、未来の兵庫をつくる子どもたちへの大きな資産である。

(多様な人材と時代を先取りする進取の気性)

社会事業家の輩出

- ・ 世界の窓口となった神戸から、キリスト教宣教師たちが独自の教育を展開する学校を各地に開設するとともに、地域の経済人が私財を投じ、優れた人間教育を広げた。
- ・ 特色ある多様な私学教育と各地域で長く歴史を持つ公立学校が、国内外で活躍する様々な人材を輩出している。こうした人を育てる風土は、これまで多くの社会事業家を輩出してきたことにもうかがえる。

- ・ 庶民が利用できる福祉的な幼稚園を全国で最初に開設した間人（はしうど）たね、周産期施設の病院を開設した三宅廉（れん）、神戸生活協同組合の創設者である賀川豊彦など、消費者運動や労働運動の先駆者を輩出してきた。
- ・ 国内で 2 番目、現存する老人ホームでは最古の歴史を持つ「神戸老人ホーム」の開設も兵庫県であり、先駆的な社会起業家の歴史が兵庫に蓄積されている。
- ・ 阪神・淡路大震災の際、国内外から数多くのボランティアが駆けつけ、ボランティア元年とも呼ばれるのは、先駆的な地域活動の歴史の上に、そうした人たちと協働する地域の活動家たちがいてこそのものである。

進取と自由の気風が生んだ先人たち

- ・ 進取と自由の気風は、大正時代に三井、三菱財閥に並ぶ企業グループとして国内外で事業を展開した鈴木商店、第二次大戦後の日米講和交渉等で活躍した白洲次郎、沿線の住宅地開発や宝塚歌劇、百貨店経営という私鉄経営のビジネスモデルを作った阪急電鉄など、外国と対等に新たな発想で活動する人や企業を生み出してきた。
- ・ 平清盛が開いた大輪田泊にはじまり、明治以降、神戸港が海外貿易の窓口として世界有数の国際港に発展する中で、世界に開かれた国際感覚に優れた地域が生まれた。
- ・ 近代以降の神戸港は、幕末の神戸海軍操練所と勝海舟の神戸海軍塾を端緒とする。坂本龍馬は、ここで塾頭を務めた経験を礎に、のちに長崎で海援隊を起こし、幕末の争乱の中を雄飛した。海軍塾には、幕末から明治維新にかけて活躍する諸藩の志士が集まり、自由闊達な気風と世界を相手にする気概にあふれていた。
- ・ 挑戦する気風は、世界初の五大陸最高峰登頂者となった但馬出身の冒険家、植村直己から全国の冒険家たちへも引き継がれている。
- ・ 時代を切り開き、社会問題に挑み、新しい社会を築いていく。志の高い進取の人たちを生み育てた土壌の上に、成熟社会にふさわしい新たな兵庫の姿が築かれる。

（確かな技術と産業力）

確かな技術と信頼を受け継ぐ

- ・ 瀬戸内臨海部の工業地帯は鉄鋼、造船等の産業で日本の近代化の土台を担ってきた。企業に継承される確かな技術は、原子力発電に使用するタービン発電機、新幹線の車両製作など世界有数の技術力を誇るほか、世界で活躍する小さな世界的企業が数多く存在する。企業の世界最先端の製品を支える正確で信頼性の高い部品づくりなど、地域の中に確かな技術と誠実な取引が世界から信頼を勝ち取ってきた。
- ・ ノーベル物理学賞を受賞した江崎玲於奈氏が若き研究者として在籍したのが神戸市に本社を置き真空管や通信機を製造していた「神戸工業」である。そののち他社に吸収されるが、技術力でその名を知られ、江崎氏は「研究レベルは日本でトップ」だったと語っている。豊富な人材による自由な研究、異端を許す土壌があった。

地域に根ざした産業への期待

- ・ 高い技術力を持つものづくり産業が地域に根付いている。三木の金物、豊岡の鞆、西脇の播州織など、生活と結びついたものづくりの伝統が連綿と受け継がれている。

- ・平成以後のバブル経済の崩壊、平成 20 年のアメリカの金融危機から波及した世界経済の混乱など、実体のない金融資本主義の弊害が明らかになる中、優れた技術と高い信頼に裏打ちされた、ある種の愚直なものづくりなどの実業が再び飛躍することが期待される。

(2) 地域の多様性 - 地域ビジョンの取組から

- ・兵庫という地域の特性を一言で表すと「多様性」になるのではないか。
- ・県民主役・地域主導で描かれた 21 世紀兵庫長期ビジョンの地域ビジョン（将来像）を眺めると、この県土の多様性が実感される。地域ビジョンには、地域ごとにその特性を映し出す多様な将来像が示されている。ビジョン実現を目指す県民の活動もビジョンの多様性に劣らず多彩なものとなっている。

神戸

「楽しいまち・神戸」を将来像に掲げ、六甲山を活かした活動や県民交流のイベント「神戸ゆめまつり」の開催など、地域を越えた交流の活動が広がっている。神戸空港も開港し、住みたい街、行きたい街として全国での人気も高く、優れた科学技術基盤とあいまって、国内外から人が集まっているが、阪神・淡路大震災の影響が大きい地域ではまちの賑わい、元気を取り戻す取組が続いている。

阪神南

大阪と神戸の間「阪神」という個性を大切に、市民主導の「私文化」を継承し、市民主体の幅広い活動が展開する「阪神市民文化社会」を将来像に掲げる。地域に根ざした若手演奏家のコンサートやさまざまな発表の機会など「する文化」が広がっている。また、地域の人たちが主体的な取組により、尼崎 21 世紀の森構想や西宮・御前浜再生の取組とあわせ、阪神のなぎさを結ぶ「阪神南なぎさ回廊」づくりなど、地域の特性を活かした多様な活動が展開されている。

阪神北

大都市圏のベッドタウンとして成長してきたが、多くの団塊世代をはじめとする地域住民の意識として、地域の風土や文化への関心、地域とのつながりが必要という意識のもと、活力あふれる潤いのある生活空間の再発見を旨とする「阪神市民社会の創造」を将来像に掲げた。ニュータウンの団塊世代を中心とするお父さん世代に、「地域ってこんなとこよ」と地域の魅力の再発見や地域回帰を図って、さらに豊かな生活空間を旨とする活動が展開されている。

東播磨

人・地域・社会が元気な「ひょうごのハートランド」を将来像に掲げ、東播磨地域を特徴づける貴重な水辺空間、ため池などを核にした地域まるごと博物館「いなみ野ため池ミュージアム」をはじめとする活動が展開されている。県下 3 番目の生活創造センター「かこむ」や、見る・試す・感じる考古博物館が開設し、自ら体感し、地域に根ざすさまざまな活動の基盤が整って、地域の元気を育てつつある。

北播磨

「ふるさと」の誇りを共有し、やすらぎと活力を感じる交流の舞台「ひょうごのハートランド」を将来像に掲げている。交流をキーワードに、北播磨の景観、風土、文化をまるごと博物館とする田園空間博物館の取組や北播磨交流の祭典など、さまざまな交流活動が繰り広げられている。また、中学生への心肺蘇生法普及等の「命の教育」が活発に取り組みられるなど、学童期から地域との関わり、ふるさと意識づくりが進められている。

中播磨

人の輪と地域の資源、地域の力が共鳴する「銀の馬車道ネットワーク」を将来像に掲げ、日本初の高速産業道路として、中播磨から但馬に続く「銀の馬車道」で地域をつなぎ、連携を深める取組が活発化している。世界文化遺産姫路城や多彩な地域の祭り、ファストフードにはない味わいの深さを引き継いでいる魅力ある地元料理など、歴史が息づく多様な地域資源と多彩な人たちを結ぶネットワークが築かれつつある。

西播磨

『出る杭が地域をつなぐ「わ」の国 西播磨』を将来像に描き、豊かな森、川、海など自然の魅力や地域の資源を活かす取組が展開されている。地域で頑張る人を応援する「出る杭大会」は地域に根付いてきた。世界最高性能の大型放射光施設 Spring-8 は、供用開始 10 年を過ぎ、世界最先端の科学技術拠点として成果を見せつつあるが、平成 16 年、平成 21 年と相次ぐ台風による水害に見舞われ、防災基盤の強化を進めている。

但馬

「コウノトリ翔る郷」を将来像に掲げ、コウノトリに象徴される人と自然が共生する地域づくりが展開されている。平成 17 年にはコウノトリの試験放鳥が始まり、一度は絶滅したコウノトリが 40 年の時を超えて自然界の空を舞い、ひなが巣立った。人口減少が続き小規模集落は増加しているが、都市との交流を軸に集落活性化の取組が展開されている。山陰海岸がユネスコのジオパーク日本候補地となるなど、地域の魅力を高める新たな魅力づくりも進んでいる。

丹波

地域全体を森に見立てる「みんなで丹波の森」を将来像に描く。都会に近い田舎として、都市部の人気も高く、松茸、黒大豆、栗、猪などの丹波ブランドの食材も魅力に、市民オペラや国際音楽祭など、丹波の歴史文化も活かしながら、都市との交流を深めるさまざまな活動が展開されている。世界でも希少な全身骨格発掘の期待が高まる丹波竜の恐竜化石を活かす取り組みなど「丹波の森」構想から 20 年を経過、新たな飛躍が期待される。

淡路

温暖な気候、花と緑と海が織りなす優れた自然景観を活かして全島が公園となる「環境立島『公園島淡路』」を将来像に掲げ、豊かな自然、国生み神話や人形浄瑠璃をはじめとする文化芸能、四季折々の魚介類などの魅力で都市住民を引きつけている。明石海峡大橋が開通してから 12 年、「ジャパンフローラ 2000」から 10 年が経過し、菜の花エコプロジェクトをはじめ花と緑あふれる公園島づくりの活動が各地で展開されている。

3 資源を生かす

(1) 基本的な考え方

<隣り合う危機と好機>

- ・ 人口減少社会の到来、価値観の変化、世界規模での構造変化など時代潮流の大きな変化は、県内各地に様々な問題を引き起こすが、一方で、社会のあり方、空間の使い方、時間の使い方などを見直し、改めていく好機と捉えることもできる。
- ・ 例えば、人口減少に伴う経済社会の担い手の減少は、若者、女性、高齢者、障害者、外国人等の活躍の場の拡大と見ることができる。また、利用されない空間の増加は、都市においては、緑を取り戻し、豊かな公共空間を生み出すチャンスであり、多自然地域においては、新たな産業や活動を生み出す空間の拡大と捉えられる。

<不易流行を見定める>

- ・ だが、時代潮流が大きく変化するからといって、今あるもの全てが変化するわけではないし、そうさせるべきでもない。守らなければならないものもある。
- ・ 例えば、環境に極力負荷をかけない暮らし方への変革など変えるべきものは変えなければならない。一方で、個人のアイデンティティの基盤になる地域の個性は、グローバル化がますます進む時代だからこそ、何としても守りたいものである。
- ・ 地域の個性を形作る自然環境、歴史、伝統、祭り、慣習、行動規範、物語、生活の知恵、歴史的建造物などは、すでに忘れ去られてしまったものがあるとしても、可能な限り掘り起こして再生し、地域の強みとして育て、継承していく必要がある。

(2) 「変える」「守る」「生かす」の見定め

- ・ これから何を換え、何を守り、何を生かすのか。変化する時代潮流の中で「変えるもの」「守るもの(変えてはならないもの)」「生かすもの」を見定めることが、兵庫の多様な可能性を開花させていく上で大切である。

変えるもの

高齢期の生き方

- ・ 効率を追求する産業社会の中では、高齢期の生き方は、仕事を離れた後の「余暇」をどう過ごすかの問題として捉えられがちであった。
- ・ 高齢化がこのまま進めば、やがて人口の3分の1がいわゆる「高齢者」になる時代が訪れる。寿命が伸び、多くの人々が長い「高齢期」を過ごすことになる。
- ・ 年齢を重ねても、一人ひとりの置かれた状況に応じて、社会の中で知識、経験、技能を生かして活躍できる場づくりを進めることが必要である。
- ・ 高齢者に限らず、女性や障害者も、誰もが意欲さえあれば、能力を生かして社会で活躍することができる、そんな社会を作っていくことが必要である。

暮らし方とまちの形

- ・ 気候変動（地球温暖化）や石油の枯渇など資源制約も長期的には懸念される中で、環境負荷が少ない暮らし方やまちの形に変えていくことが必須となっている。
- ・ これまでの暮らし方、まちの形は 20 世紀の大量生産・大量消費社会に適応した姿になっていた。有限の資源を大切にしながら、環境を守り持続可能な生活を続けていくためには、モノの使い方、住まい方、移動手段など、暮らし方やまちの形（都市・地域構造）の全ての面について新しい仕組みを作っていくことが必要になる。

「しごと」のあり方

- ・ 人口減少時代には、社会的な意味でも、経済的な意味でも、新たな担い手が期待される。女性や高齢者の力を引き出す仕組みが必要である。
- ・ 効率性を追求する産業活動だけでなく、これまで経済活動と捉えられていなかった身近な地域課題に取り組む活動が、「しごと」として地域経済の中で一定の役割を担い、人を雇用し、人に活躍の場を提供するようになっていく必要がある。
- ・ また、今よりも少ない人数と労働時間で今よりも高い生産性を上げるためにどうすべきかを考える必要もある。個人の能力をいかにして高め、発揮させるか、快適で働き甲斐のある職場をどうやって作っていくかを考えなければならない。
- ・ 男性中心の産業社会のあり方と依然強固な性別役割分担のあり方を見直し、働きすぎからの解放、人間的で豊かな時間の使い方を実現する必要がある。

守るもの

地域のアイデンティティの基盤

- ・ 世界が一体化し、人、モノ、情報が自由に行き交う時代だからこそ、地域の個性・特色が求められる。明確な地域のアイデンティティは世界の中の兵庫の存在感を高める大きな力になる。
- ・ 連綿と語り継がれ、引き継がれている地域の歴史文化や景観は「空間の履歴」とも呼べる地域の個性であり、魅力である。それは人々の営み、人の絆の中で築かれ、継承されてきた。住民には当たり前なのが、第三者の目には優れた宝に映る。

（自然・景観）

- ・ ふるさとの山、民家のたたずまい、水と緑を湛えた田園風景、子どもの頃の記憶を思い出させる街角の駄菓子屋。自然や景観は長い時間の中で移ろい行くものであるとしても、地域のアイデンティティの基盤をなすものとして、人の手でみやみに壊さないように大切に守っていく必要がある。

（文化・物語・知恵）

- ・ 生活の中で形作られてきた文化、住民の間で語り伝えられてきた物語、暮らしの中で培われてきた生活の知恵など。目には見えないが、地域のアイデンティティの基盤をなす重要な要素である。これらふるさとの記憶ともいべきものを、次世代に着実に引き継いでいくために今なにをすべきかを考える必要がある。

生かすもの

つながり

- ・ 世帯が縮小し、多世代の同居から核家族、さらには夫婦のみ世帯、単身世帯が増加して、「小さな家族」が増えていく。
- ・ 夫婦間あるいは、子ども・老親などへの家庭内暴力（DV）が増加するなど、家族のつながりに揺らぎが見られる。その一方で、同居はせずとも近隣に住んで家族で支えあう形が増加するなど、家族の結びつきを求める動きも広がっている。
- ・ 地域のとつながりの希薄化が指摘される一方で、地域活動やボランティア活動に参加する人が増加するなど、地域のとつながりの再生に向けた取組が広がりつつある。地域 SNS など新しい形のとつながりを模索する動きも見られる。
- ・ 形は変わっても「つながり」を求める人の気持ちは変わらない。家族、仲間、地域の間には結ばれる多層的なつながりを再生していくことが大切である。

人材

- ・ 産業の面からも地域づくりの面からも、内外の多彩な人材の力を生かすことが重要である。地域の魅力づくり、活躍の場づくりに成功する地域は多彩な人材を引きつけ、集まった人が地域の元気と豊かさを向上させる。いかに優れた資源があっても、その資源を可能性に転換するのは人の力である。

経験と技術

- ・ 例えば、阪神淡路大震災からの創造的復興、一度絶滅したコウノトリの野生復帰、土砂採取跡地に緑を復元した淡路夢舞台、失われた瀬戸内の自然を再生する尼崎 21 世紀の森づくりなど、兵庫の多彩な地域づくりの中で培われた経験と技術を広く世界に向けてどう生かすのか。
- ・ 特に兵庫が強みを有する防災や環境の分野で、この地域の経験と技術をどう世界に伝えていくのかを考える必要がある。

空間と社会基盤

- ・ 利用されない空き空間が増加している。空間は資源であり、これを生かして都市の魅力を上げていく好機と考える必要がある。低未利用の空間を使って人の交流を促し、豊かな暮らし方を支える基盤として生かしていく必要がある。
- ・ これまで整備してきた社会資本も、時代の変化、環境の変化に合わせて順次見直し、地域の活力を効果的に引き出す舞台として使いこなしていくことが重要である。
- ・ 特に兵庫は、関西、伊丹、神戸、但馬の各空港、神戸港をはじめ瀬戸内臨海部の港湾、県内を縦横に走る高速道路網など、抜群の交通アクセスを有し、人・モノ・情報が行き交う 21 世紀の交流拠点となる可能性を持つ。その強みを生かしていかなければならない。

兵庫の可能性を開花させるための課題と協働戦略の方向性

テーマ	協働戦略	シナリオ実現に向けた課題と可能性	多様な主体が協働した取組の方向	(参考) 関連する主な県施策
<p>持続可能な地域構造への転換</p>	<p>空間活用 空間を活かして活力ある地域を創出</p>	<p>(主要課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口偏在化と地域空間劣化への対応 (空間活用を促す仕組みづくり) 生活持続の基盤づくりと自立拠点の形成 <p>(逆転への視点)</p> <p><地域共通></p> <ul style="list-style-type: none"> 活用できる空き空間の広がり 地域主体の公共交通運営の広がり(コミュニティバスなど) テレワークなど通勤を必要としないライフスタイルの拡大 <p><主に多自然地域></p> <ul style="list-style-type: none"> 若年層を中心とした農への関心や都市農村交流の広がり 空き家バンクの運営など空間活用の萌芽 中心地における活用可能な遊休地・遊休施設の拡大 企業の森づくりの広がり 定住自立圏など都市連携による新たな生活圏形成の動き <p><主に都市郊外地域></p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地商店街の再生を模索する動きの活発化(従来の商店街からサービス街化の方向性) 空き家をリファービッシュ(磨き直し)により再生し、若年層に比較的手頃な価格で提供 ガーデニングやファームの広がり 空き地を生かした事業所立地による職住近接の可能性 <p><主に都市中心地域></p> <ul style="list-style-type: none"> 減築による住宅の質の向上の取組(浜甲子園団地など) 神戸・阪神地域の高いブランド性(快適な都市空間の創出により人口吸引が可能) 臨海部の低未利用地の活用(質の高い住宅供給など) 高層化による公共空間・緑空間創出の余地拡大 空洞化する駅前・商店街の活用(高齢者の居住エリア化) 阪神間の一層のコンパクトシティ化(駅を中心にサービス・住居が高密度で集積) 団地再生の取組(明舞団地など) 環境負荷の低い移動手段への関心の高まり 	<p><持続する集落づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 校区単位等での生活関連サービスの確保 集落点検・土地の棚卸しによる地域空間再生ビジョンづくり 村の運営ルールの見える化 <p><交流・連携による支え合いの仕組みづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 上下流連携による森林管理の仕組みづくり(流域圏構想) 二地域居住や都市農村交流を促す仕組みづくり 多様な主体の集落への関わりづくり(NPO、大学、下流市町、企業など) 村収めを選択した集落に対する生活維持への支援 <p><空間活用の仕組みづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 奥山・里山・人里の区分など土地利用の新たな枠組整備 廃村地域の環境荒廃の他地域スライドの防止 空間再生支援機構による空間活用・住み替え支援 建築士・工務店(大工)等が連携した空き家活用の専門家集団の形成促進 <p><暮らしを支える中心地づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 病院等を核にした地域の生活関連サービスの集約化・拠点化の促進 <p><地域の足となる公共交通の再編></p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスやディマンドタクシーなど地域主体の公共交通運営支援 <p><持続する郊外づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 郊外の生活関連サービスの集約化・拠点化の促進 減築による住宅と街並みリニューアルでの魅力向上 二戸一化の促進による質の高い住環境整備 (隣接地の空き家・空き地を優先的に買い取れる仕組みづくり) リファービッシュ(磨き直し)による高質な住宅整備 コンバージョンによる用途転換で地域が必要とするサービス提供 (小学校丸ごとNPOの拠点化、デイケアセンター化) <p><郊外居住の暮らしの質の向上></p> <ul style="list-style-type: none"> 空き地を活用した農園・庭園整備による身近に「農」のある暮らしの実現 周辺地の自然再生・森づくりなどによる自然豊かな生活空間の創出 土地利用の混在化(用途の多様化)による事業所立地など近場での就業の場づくり <p><歩いて暮らせる市街地づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> 歩きたくなる街づくり、魅力あるオープンスペースづくり (コミュニティを醸成する空間の形成) 徒歩・自転車優先の街作り(歩道・自転車道ネットワーク化) 自動車の進入をコントロールする中心市街地の設定 	<p>[主に多自然地域]</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域再生大作戦 小規模集落元気作戦 ふるさと自立計画推進特別事業 中山間「農の再生」推進対策 地域再生応援事業 古民家再生促進支援事業 山地防災・土砂災害対策緊急5箇年計画 緊急防災林・里山防災林整備 シカ捕獲拡大緊急対策 多自然居住交流拠点施設整備支援 生活交通バスへの支援 孤立集落防災対策 企業の農地参入促進 <p>[主に都市郊外地域]</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域再生大作戦 まちなか振興特別事業 商店街活性化貸付制度 商業施設魅力アップ支援事業 商店街・まち再生整備事業 商店街共同施設撤去支援事業 明舞団地再生推進事業 長期優良住宅の普及促進 ひょうご市民農園整備 都市農業の推進 <p>[主に都市中心地域]</p> <ul style="list-style-type: none"> エバ-カ社会づくり推進地区 公共交通バリアフリー化促進 県民まちなみ緑化事業

テーマ	協働戦略	シナリオ実現に向けた課題と可能性	多様な主体が協働した取組の方向	(参考) 関連する主な県施策
	<p>環境創造</p> <p>自然の恵みを生かして豊かさを向上</p>	<p>(主要課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空間活用による食料自給率の向上 (農に対する関心の高まりへの対応) ・エネルギー自給率の向上 ・環境負荷の低い持続可能な地域づくり <p>(逆転への視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年層を中心に広がる農への関心、新規就農者の増加 ・農を核にした6次産業化の動き ・ファーマーズマーケットの広がり ・農と食の直結による小さな住民経済の広がり(直売所等) ・森林カーボンオフセットを契機とした森林再生の動き ・林業活性化への新たな挑戦(小ロット私有林の集約化、森林カーボンオフセットなど) ・食やエネルギーの自給持続の可能性 ・森林・林業の担い手育成への取組(木材コーディネーター) 	<p><新たな農の展開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化による第一次産業の再生(農業者による農村レストラン・カフェや農家民宿の開業支援、加工品開発・販売へのデザイナー参入) ・若年層・壮年層などの移住や就農支援 ・企業の農業参入を促す仕組みづくり ・新規就農者を育成する民間の取組(チャレンジファーム)の拡大支援 ・県民皆農の推進(空き地の農地化と農を学ぶ県民運動) ・朝市(ファーマーズマーケット)の支援(都市公園など公共空間の開放、行政窓口の一元化など) ・野生鳥獣を生かした新たな産業の育成(ジビエ料理のメニュー開発支援等) <p><森から恵みを引き出す></p> <ul style="list-style-type: none"> ・私有林の集約的管理と森林経営 ・木材コーディネーターの育成(流域単位に森林・林業の専門家を育成) ・森林カーボンオフセットの仕組み構築(関西圏を中心に企業の利用を促進) <p><自然エネルギーの利用拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き地・屋上等を生かした小さな発電所づくり ・マイクログリッドなど分散型エネルギーの基盤づくり <p><環境負荷の低い都市・地域空間づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食・エネルギーの自給持続の村づくり ・建物の木質化(脱コンクリート) ・移動手段の低炭素化(自転車通勤の拡大、電気自動車の普及等) ・地域連携型カーシェアリングの実施(地域・企業・行政連携) ・生活・産業のさまざまな場面でのカーボンオフセット一般化 ・緑の回廊づくり(すき間・空き地を森に、屋上・駐車場等の緑化を徹底) ・植物工場など新たな技術の積極的導入(都市部の空きビル等を活用した植物工場の展開促進) 	<p>[新たな農の展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場産業ブランド力強化支援 ・地域企業市場開拓支援 ・ひょうご農商工連携支援ファンド ・ひょうご農業MBA塾開設事業 ・企業の農業参入推進事業 ・経営継承円滑化推進事業 ・集落営農組織育成総合対策事業 ・ひょうご安心ブランドモデル産地育成 ・農村ボランティア活動支援 ・農林水産物等の輸出促進 ・米粉用米新規需要創出研修事業 ・保育所・幼稚園産地消費食 <p>[林業の振興]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林内路網1,000km整備プラン ・排出量相殺制度の推進 <p>[水産業の振興]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひょうごのさかな消費拡大対策 <p>[自然エネルギーの活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオエーゼル燃料製造体験事業 ・小規模事業者太陽光発電整備支援 ・メガワット級ソーラー発電施設の整備 <p>[環境負荷の低い地域づくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー自給のむらづくり ・低公害車等の導入促進 <p>[自然の再生と生物多様性の維持]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性ひょうご戦略の推進

テーマ	協働戦略	シナリオ実現に向けた課題と可能性	多様な主体が協働した取組の方向	(参考) 関連する主な県施策
	<p>地域自立 県民主役の地域づくりの基盤を築く</p>	<p>(主要課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自立を促す仕組みづくり ・地域資源の再評価と活用 <p>(逆転への視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりの担い手育成の動き(兵庫県立大学等) ・シティズンシップ(市民性)教育の国際的な取組の広がり ・地域づくりをサポートする中間支援組織(NPO)の成長 ・企業の社会貢献・地域参加の広がり ・自前での資金調達に乗り出す商店街コミュニティの登場 ・地域の資産価値への関心の高まり ・「共感」を媒介に地域づくりを支援するファンドの出現 ・地域団体の横の連携・統合の動きの拡大(まちづくり協議会、NPO法人化など) ・指定管理による地域主体の社会資本管理の動き ・住民のたまり場・交流の場の増加 ・NPOや大学等の地域志向(活動展開の動き) ・NPO法人、合同会社(LLC)、有限責任事業組合(LLP)など様々な法人形態が法的に整備され、地域の選択肢が拡大 ・危機感を背景とした住民主体の地域運営の広がり ・自然環境、景観、文化、食、共同体の絆、継承されてきた物語・知恵など地域固有の資源(豊かな空間の履歴) ・地域資源の再評価と再編集の動き 	<p><地域づくりの担い手育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域再生人材や空間管理の専門家(レンジャー)の育成 ・幼少期からの地域学習・体験学習(農業・介護等)の充実 ・社会参加意識を育む市民性教育の学校教育における必修化 <p><地域づくりを支える基盤の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域を支える中間支援機関(大学・NPO等)の育成(フィールドワークや活動拠点のマッチング、コーディネート、初動経費の補助) ・様々な主体が参画する小さな自治の組織づくり(行政の補助金の統合化、協定による権限委任、地域担当職員制など) ・住民主体の空き空間活用やエリアマネジメントの推進 ・指定管理の拡大による地域資産の自主管理の促進(地域主体の資産運営による地域空間の質の向上と活動資金の調達の両立) ・地域ファンドの仕組みの構築 <p><地域資源の再評価・再編集></p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫の地域多様性を整理・記録するWEB百科事典づくり ・兵庫の集落を歩き巡る「ひょうごフットパスガイドブック」の作成 ・B級グルメ・SEA級グルメなど地域の食を核にした集客戦略 	<p>[地域の担い手づくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと創生塾 ・環境体験事業 ・自然学校の実施 ・トライやる・ウィーク ・トライやる・ワーク ・団塊世代等地域デビュー支援 ・地域づくり活動サポーター <p>[地域づくりを支える基盤整備]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域活性化対策 ・ふるさと人材確保ネットワーク構築 ・コミュニティ・ビジョン等での起業支援 <p>[地域資源の再評価と活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業観光地場づくり促進事業 ・やる気観光地場づくり促進事業 ・ふるさと観光地場づくり促進事業

テーマ	協働戦略	シナリオ実現に向けた課題と可能性	多様な主体が協働した取組の方向	(参考) 関連する主な県施策
<p>生活の豊かさの向上</p>	<p>つながり再生 家族・地域の支え合いを確かなものに</p>	<p>(主要課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多層的なつながりの再生 ・地域で助け合う住まい方の実現 <p>(逆転への視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つながりがもたらす豊かさへの気づきの広がり ・地域への回帰志向の高まり、一人多役のライフスタイル ・地域コミュニティの横の連携やさまざまな団体が結集したまちづくり協議会などを通じた小さな自治の動き ・自主防犯グループの拡大 ・離れていても近居・隣居で支え合う家族 ・異なる世帯がともに支え合う暮らしへの動き(コレクティブハウスなど) ・所有から利用の価値へのシフト ・ワークライフバランスの取組の広がり ・生活時間の余裕、生きがいや自己実現を目指す時間の増加 	<p><地域のつながりの再生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の祭りなどを生かした地域のつながりづくり(隣人祭り) ・地域の商店街・商業施設を核にした地域のつながりづくり(空きスペースを若者のたまり場、地域の寺子屋に活用) ・地域ぐるみでの子育てのしくみづくり(地域の父親が連携する子どもへの地域教育プログラム開発) ・地域による安全安心の確保のしくみづくり(地域による防犯や防災、弱者の見守り・声かけ) ・隣人祭りやピクニックの開催による地域コミュニティの再生 <p><多様な住まい方を支えるしくみづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣居・近居の促進(隣居近居対応型共同住宅整備、空き家・空き地の活用、自由に間取りを変えられる住宅構造の普及など) ・地縁・血縁によらない多様な暮らし方を支える住宅整備(多世代のコレクティブハウス等の住まい方を支えるしくみ) <p><地域と関係性をもった人づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童期から社会参加意識を学ぶ地域教育プログラムの実施 ・地域の高齢者や女性による子育て支援 NPO の育成 ・高校生への農や福祉、地域活動の経験の機会づくりの拡大(将来の担い手づくり) 	<p>[家庭と地域の再構築]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひょうご家庭応援県民運動 ・わくわく親広場、おやし元気プロジェクト ・県民交流広場事業 ・地域安全まちづくり事業 ・防災力強化県民運動 <p>[地域で子育て]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの子育てひろば、子どもの冒険ひろば、若者ゆうゆう広場 ・若者の居場所づくり活動支援強化 ・地域の子育て支援 NPO 立ち上げ支援 <p>[地域との関わり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライやる・ウィーク ・トライやる・ワーク(高校生の就業体験) ・行政 NPO 協働事業助成

テーマ	協働戦略	シナリオ実現に向けた課題と可能性	多様な主体が協働した取組の方向	(参考) 関連する主な県施策
	<p>安全安心 誰もが健康で長生きできる環境を整備</p>	<p>(主要課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質の高い保健・医療・福祉サービスの提供 ・ 豊かさの裏側問題(自殺等)への対応 <p>(逆転への視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアや地域貢献活動を選ぶ若者の増加 ・ 大学の社会起業学科創設など社会起業を学ぶしくみの広がり ・ NPO や社会的起業など地域に根ざしたしごとの広がり ・ 30歳以上女性の就業率が向上の傾向 ・ ワークライフバランスの取組の広がり ・ 定年延長など高齢者雇用を進める企業の拡大 ・ 健康長寿のための新たな生活サービス、健康サービス市場の拡大 ・ 震災復興で蓄積された LSA 等高齢者を地域で見守るしくみ 	<p><健康寿命の向上></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活圏におけるプライマリーケアの確保(地域のかかりつけ医の確保) ・ 元気で活躍できる高齢期のための健康を支えるしくみづくり(高齢期に至るまでの健康づくり、健康づくりプログラム) ・ 要介護状態になっても最大限地域での生活が続けられるしくみづくり(要介護者や介護者を支えるサービスの充実) ・ 地域で高齢者を見守るしくみづくり(孤独死を防ぐ声かけネットワーク等) ・ 高齢者の資産活用による福祉サービスの提供(柔軟なりバースモーゲージ) ・ 担い手育成につながる青少年期からの介護体験等のプログラムづくり ・ ターミナルケアの充実による家庭での看取り促進 <p><ユニバーサル社会づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の自立生活支援・就業支援の充実 ・ バリアフリーの推進など地域のユニバーサルデザイン化 <p><安心して結婚・出産・育児ができる環境整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークライフバランスによるゆとりづくり(出会いの時間と機会づくり、男性・女性とも子育てに関わる社会、企業が子育てを支えるしくみ) ・ 育児としごとが両立できる制度整備(保育サービスや育児のために離職した人の再就職支援) ・ 安心して子どもを産むことができる保健医療体制の確保(周産期医療、小児医療、小児救急医療体制の確立) <p><豊かさや安心を共有するしくみづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談機能の充実による自殺やひきこもり予防、社会復帰の促進 ・ 虐待などの家族の危機を、専門機関の対応にすばやくつなげる地域の見守りの目と助け合いのつながりづくり <p><防災・防犯力の高い地域づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害・犯罪に強い地域づくり(地域の危機管理能力の向上) ・ 防災・減災の基盤づくり(土砂災害・大規模地震対策等) <p><食の安全安心の確保></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認証食品の流通促進など地産地消の推進 	<p>[高齢者のセーフティネット]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉人材確保の総合的推進 ・ 認知症見守り・サポート人材育成 ・ 地域での高齢者の見守り体制充実 <p>[健康づくりの促進]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康マイプラン 200万人運動 ・ まちの保健室 ・ がん検診受診率向上対策 <p>[地域の医療体制の整備]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産科医等確保、産科救急医療体制の整備 ・ 看護職員離職防止対策 ・ 小児救急医療相談窓口の運営 ・ 小児科救急対応病院群輪番制 ・ 医師派遣緊急促進事業 ・ 地域医療支援医師研修事業 ・ ドクター共同運航事業 <p>[障害者のしごとの確保]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者小規模通所等援護事業 ・ 障害者しごと支援事業 ・ 空き店舗活用モデル事業 <p>[ユニバーサル社会づくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなの声かけ運動 ・ エバーグリーン社会づくり推進地区 ・ 公共交通バリアフリー化 <p>[子どもを産み育てやすい仕組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ひょうご出会い支援事業 ・ 保育所待機児童解消に向けた取組 ・ 多様で柔軟な保育(延長保育等) ・ 育児・介護等離職者再雇用助成 ・ ひょうご放課後プラン事業 <p>[生活のセーフティネット]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの見守りシステム ・ DV 防止、被害者支援対策 ・ 自殺防止対策の総合的推進 ・ 低所得者のセーフティネット支援 ・ まちづくり防犯グループの育成 ・ 都市浸水対策 ・ 学校・病院・福祉施設等耐震化 ・ 食の安全安心の推進

テーマ	協働戦略	シナリオ実現に向けた課題と可能性	多様な主体が協働した取組の方向	(参考) 関連する主な県施策
	<p>しごと再生 生涯現役がかなう社会づくりを進める</p>	<p>(主要課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の社会参加・就労支援対策 ・ワークライフバランスの実現 ・何度でもやり直しできる雇用就業環境整備 ・地域課題に取り組む社会的起業の育成 <p>(逆転への視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識、経験、技能の豊かな高齢者の増加 ・いつでも学べる多彩な生涯学習の機会 ・元気に活躍する高齢者の増加 ・高齢者の豊かな資産の活用 ・世代を超えて地域の人たちが集う場の拡大 ・定年延長など高齢者雇用を進める企業の拡大 	<p>< 何度でも新たなしごとに挑戦できるしくみ ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の企業や NPO と連携し就業と直結した職業訓練カリキュラムづくり (暮らしに身近な「コンビニエンス・カレッジ」のしくみづくり) ・個別企業の求める技術の習得で就業と結びついた職業訓練サービス <p>< 若年期からの目的意識を持つ教育システム ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の就労意識を高めるための職業体験プログラムの普及 (「長期インターンシッププログラム」「ギャップイヤー制度」(戦略的休学)などのしかけづくり) <p>< 多様な働き方ができる社会づくり ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業形態を柔軟に選択できる雇用環境整備 (多様就業型ワークシェアリング、短時間社員、在宅勤務、再就職支援) ・柔軟な保育サービスのしくみ (一時保育、延長保育、病児病後児保育等安心して子どもを預けられるしくみ) ・留学生の県内企業への就職促進 (マッチングセンターの開設等) <p>< 生涯現役が実現する社会デザイン ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者像の再定義、高齢者という呼称の見直し ・職業経験や生涯学習の成果を地域活動や就業につなげるしくみづくり (生涯学習の場と地域活動団体とのマッチング、地域でのしごとや地域活動と直結する準備講座となる学びの場) ・蓄積された熟練 (「匠」) の技術を若者に継承していくしくみづくり ・高齢者の「第二就業」「生きがい就業」等のさまざまな就業ニーズと人手を必要とする「しごと」をマッチングさせるしくみづくり <p>< 多様なしごとの創出 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に取り組むコミュニティ・ビジネスの育成 ・介護、福祉、環境などの領域で身近な課題解決からしごとを生み出す社会的起業の育成 (社会起業家のネットワーク化、ロールモデルの普及、ノウハウを伝えるプログラム開発等) ・地域で自分たちの仕事をつくる「協同労働」や地域課題に企業的手法で取り組む「社会的起業」を支援するしくみづくり (地域の資金を地域に循環させるファンドなど資金支援の仕組み) ・地域の資源を生かす小さなしごとづくりによる高齢者・女性の就労拡大 ・ものづくり現場に蓄積された「匠」の技術を地域に活かすしごとづくり (地域資源とものづくり技術を融合させた新しい地場産品開発) 	<p>[新たなしごとへの挑戦]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離転職者を対象とした職業訓練の拡充 (介護・福祉、IT等) ・新規開業貸付の拡充等起業支援 ・ひょうご・しごと情報広場 ・若者しごと倶楽部 <p>[地方部の人材確保]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと人材確保ネットワークの構築 (但馬・丹波・淡路) (地域定着、Uターン促進) <p>[地域の小さなしごとづくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きがいしごとサポートセンター (コミュニティ・ビジネス等での起業・就業支援) ・コミュニティ・ビジネス離陸応援事業 ・地域の創業塾と連携した起業家支援強化事業 <p>[生涯の学びの機会]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者大学、ふるさとひょうご創生塾 <p>[職場体験、進路選択学生支援等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症地域ネットワーク ・認知症見守り・サポート人材育成

テーマ	協働戦略	シナリオ実現に向けた課題と可能性	多様な主体が協働した取組の方向	(参考) 関連する主な県施策
世界中の兵庫の魅力向上	経済活性化 世界を先導する科学技術・産業を支援	(主要課題) ・競争力の高い産業の育成 ・兵庫の場所・モノ・サービスの価値向上 ・世界に開かれた地域づくり ・創造的な人材の集積 (逆転への視点) ・研究開発機関の増加 ・世界レベルの科学技術基盤の存在 (SPring-8、X線自由電子レーザー、次世代スーパーコンピュータ、神戸医療産業都市) ・オンリーワン技術を持つ多くの中小企業の存在 ・高い技術を持つ多様な地場産業の存在 ・環境・エネルギー産業への関心の高まり ・高齢化に伴う健康、医療、福祉産業成長の可能性 ・県土の多様性と多彩で豊かな地域資源 (ブランド化により産業に結び付けられる資源の豊富さ) ・ヘルスツーリズムなど新たなツーリズムの広がり ・モノからコトへ (イメージ、デザイン、物語が付加価値を高める時代へ) ・関西の3空港、スーパー中核港湾「阪神港」など充実した交通基盤 ・外国企業数の増加 ・NPO等による多様な日本語学習の場づくり ・多様な外国人学校が存在 ・居住空間として外国人に高く評価される神戸 ・外国人コミュニティと地域との相互理解を深める動き ・留学生の増加傾向 ・県土の多様性と多彩で豊かな地域資源	<次世代産業の育成> ・健康・医療・介護・環境を核にした新産業の創出 (神戸医療産業都市を核にした国際的なヘルスツーリズム拠点づくりなど) ・兵庫の強み・資源を生かす産業創出拠点の形成 ・SPring-8 や次世代スーパーコンピュータ等を活かした国際共同研究プログラムの提案 淡路島における環境・エネルギー分野の研究開発・生産拠点形成 等 ・中小企業・地場産業の付加価値向上作戦 (デザイナー投入によるデザイン性能向上、異業種交流・コラボレーション促進による新製品開発など) ・地域の特色ある産品や文化を活かした暮らしを楽しむ産業づくり (その地域でしか手に入らない香り等の癒し商品の開発、特色ある祭りや市の情報発信など) <世界との産業連携> ・兵庫での研究開発の成果がアジアに普及し、産業を活性化させる研究開発クラスターの形成 (医療福祉産業、電池産業、次世代交通システム、鉄道など) ・兵庫の研究開発基盤で生まれた新技術を実用化、事業化して世界の市場で売る海外とのネットワークづくり (世界市場でのマーケティングの連携) <元気な中小企業づくり> ・中小企業の海外市場への直結化 (マーケティング・マッチング支援など) ・身近な課題解決から仕事を生み出す社会的起業の育成 <兵庫の魅力を世界のブランドに> ・地域のブランド化と世界に向けた多言語での発信を全県で展開「兵庫ブランド戦略」(外国人県民の力・ネットワークを生かして展開) ・教育、医療、文化、防災、環境技術など世界に通用する兵庫の強みを生かしたツーリズムプログラム整備 ・地域の生活文化等の資源をアーカイブ化、情報発信 <多文化共生の地域づくり> ・多様性理解を軸としたシティズンシップ (市民性) 教育の導入 ・留学生の県内企業への就職促進 (マッチングセンターの開設等) ・外国人学校との連携による外国人が暮らしやすい地域空間の創出 <人の立地戦略> ・著名な研究者・技術者・デザイナー等を中心とした研究開発拠点の形成 ・高度な人材を誘致するプログラムづくり (医療、買い物、子弟の教育等生活環境支援、人材データベース等) ・文化面の都市機能の充実 (劇場、ホール、ライブハウス、スポーツ施設、人間優先の美しい街路、オープンスペース、緑陰、親水空間、カフェ、公衆無線LAN、教育施設、これらの場で営まれる自由で魅力あるプログラム等) ・世界規模で活躍するオンリーワン技術を持った企業が兵庫に立地し、地域経済を牽引 (兵庫の地域文化によるものづくりの高付加価値化、兵庫の人材とオンリーワン企業とのマッチングなど)	[次世代産業の育成] ・SPring-8の産業利用促進 ・放射光を活用した優良企業発掘 ・次世代スーパーコンピュータの産業利用への支援 ・兵庫県 COE プログラム ・実用化開発資金貸付 ・新事業・雇用創出型産業集積促進補助 ・チャレンジ企業設備投資応援融資制度 ・次世代成長産業育成 [高度な技術力の人材育成] ・産業人材確保支援事業 ・ものづくり大学校 (仮称) 整備 ・工業技術センターの整備 [地域産業の活性化] ・地場産業ブランド力強化 ・ひょうご農商工連携ファンド ・地域企業市場開拓支援 ・地域産業振興資金貸付 ・実用化開発資金貸付 [多文化共生の地域づくり] ・多様なツーリズム開発 ・外国人県民相談 ・母語教育支援 ・子ども多文化共生教育支援事業 [国際交流の拡大] ・中国広東省との観光交流の推進 ・訪日外国人旅行者の誘致 ・ひょうご応援 Net の推進 ・上海・長江交易促進プロジェクト推進 ・インドとの新たな交流の推進

テーマ	協働戦略	シナリオ実現に向けた課題と可能性	多様な主体が協働した取組の方向	(参考) 関連する主な県施策
	<p>人材立県 世界に雄飛する兵庫人材を育成</p>	<p>(主要課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次代を担う兵庫人材の育成 ・蓄積された智恵と経験を生かした国際貢献 <p>(逆転への視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の増加傾向 ・防災、環境など世界に貢献できる技術・経験の蓄積 ・淡路夢舞台、尼崎21世紀の森など緑化技術の蓄積 ・コウノトリ野生復帰を実現した地域の環境システムづくり ・情報セキュリティ技術で世界最高峰のカーネギーメロン大学と提携する兵庫県立大学 ・国際貢献に取り組むNPO・NGOの増加 	<p><人材育成戦略></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度な人材が集まる研究技術開発の拠点形成 ・起業が奨励される環境づくり(学生ベンチャーの育成や再チャレンジが容易な社会システム整備など) ・デザイナーが集まる地域づくり(工場跡地、空き倉庫、学校跡地、企業保養所跡地などを活用した工房(デザイナーズ・ファーム)の整備) ・創造力を伸ばす人材育成(コミュニケーション能力と問題定義・問題解決能力の向上を柱とした学校教育の展開) <p><兵庫の人材を世界の人材に></p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した外国語教育と若武者修行による国際人材の育成(兵庫に集積する国際機関と連携したインターンシッププログラムの展開と海外人材のネットワーク化による行きやすい環境づくり) ・課題先進県として兵庫人材の国際貢献の推進(兵庫に集積する国際機関と連携した技術普及と研修受入の拡大) ・兵庫シニア海外協力隊の派遣 <p><兵庫の知恵と経験が課題解決に貢献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫に集積する国際機関を通じた世界の課題解決支援(環境の技術による緑化や環境創造、防災の技術による災害復興支援) ・アジアの情報セキュリティネットワークづくり(カーネギーメロン大と提携する兵庫県立大学の人材と技術の活用) <p><世界を先導する先進的取組モデル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア、世界で今後課題になる人口減少社会、少子超高齢化等で先駆的な取組を展開し、海外諸国の見本に(近隣・地域で高齢者を見守り、支える仕組みづくり、アジアの環境モデル都市づくり、リサイクルシステム) 	<p>[兵庫ならではの人材育成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HUMAP構想の推進 ・次世代育成国際交流事業 ・ひょうご学力向上プロジェクト ・兵庫型教科担任制の推進 ・兵庫型体験教育の推進 ・外国人による英語指導の充実 ・CMUと連携した情報セキュリティ教育 ・県立大学・全県キャンパス構想 <p>[国際貢献の推進]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際防災・人道支援協議会 ・人と防災未来センターの国際防災活動

第5部

新たな地域力指標づくり

第5部 新たな地域力指標づくり

現行の「美しい兵庫指標」を再構成し、「豊かさ」や「安全安心」の視点から県内地域の特性を浮き彫りにし、地域の現状・課題を把握するのに役立ち、「21世紀兵庫長期ビジョン」の点検・見直しでの活用をはじめとして自立的な地域づくりのツールともなる「地域力指標」を作成する。

1 数値指標について

- ・兵庫県では、21世紀初頭の兵庫のめざすべき社会像を描いた「21世紀兵庫長期ビジョン（平成13年2月策定）」の実現状況や県政の取り組みの成果を点検・評価するために、2002年度に「美しい兵庫指標」を開発し、「21世紀兵庫長期ビジョン」の実現状況を県民とともに確かめるツールとして運用している。
- ・時代潮流の変化を受け、地域がめざすべき方向の姿を描きにくい時代になってきており、環境、安全・安心など多角的に地域の強みや豊かさを評価する必要がある。
- ・また、ビジョン委員活動など地域づくりにおいても、根拠（エビデンス）に基づいた活動や、活動成果の評価が求められる時代になっており、数値指標の活用が課題になっている。

2 新しい地域力指標について

- ・社会の動向、県行政の成果、県民の意識などを示す、客観・主観約500の指標である現行の「美しい兵庫指標」を絞り込むとともに、新たな指標の追加、指標の組み合わせによる相互の関係性の見える化など、より一層わかりやすく、使いやすいツールとして再構築する。
- ・地域の「豊かさ」や「安全・安心」の現状、特性、課題を、指標を用いて数値で客観的に示すことで、住民をはじめ地域づくりに取り組む者に新しい気付きや共通理解をもたらす、自立的な地域づくりの実践を促すような指標づくりを行う。

3 新しい地域力指標づくりの考え方

(1) 基本的な構造

- ・県内共通の評価軸で捉えるべき項目と、地域特性（例：多自然地域）に応じた評価軸で捉えるべき項目を区別し、地域それぞれの「豊かさ」を測る多彩な指標を収集。
- ・レーダーチャートの活用等により、地域の強み、弱みが直感的に把握できるようにする。

(2) 指標の選び方

- ・県内共通の評価軸で捉えるべき「豊かさ」や「安全安心」に関する指標を集め、他地域（市区町）との比較を行えるようにデータを整備。
- ・「豊かさ」「安全安心」に加え、「幸福」「持続可能性」「快適さ」「楽しさ」といった視点から特に重要と考えられる指標を選ぶ。

(3) 指標の作り方

< 指標設定の単位 >

- ・市区町別・地域（県民局）別に示す。
- ・市区町別・地域別比較が可能なように標準化（構成比や一人当たりなど）する。
- ・時系列データを合わせて収集し、参照できるようにする。

< ベンチマークの設定 >

- ・地域の強み・弱みを考える際の比較の基準（ベンチマーク）となる全県平均値や他の都道府県のデータを合わせて示す。
- ・将来達成したい水準（目標値）も可能な限り示す。

< 成長し続ける指標 >

- ・地域ビジョン委員等地域住民の意見を聞きながら、指標の追加・入れ替えを柔軟に進める。データ更新については直営で行うことで、スピードアップを図る。

(4) 統合指標の作成についても検討

- ・GDP では測りきれない地域それぞれの「豊かさ」を測る統合的な指標として、GNH(Gross National Happiness (国民総幸福量)) や GPI (Genuine Progress Indicator (真の進歩指標)) も参考にしながら、環境・経済・社会の持続可能性を考慮した新しい指標(新しい兵庫指標 (NHI : New Hyogo Index) の検討) の作成についても検討する。

4 スケジュール

平成 22 年度前半を目途に原案を作成し、長期ビジョン審議会、兵庫みらいフォーラム、地域夢会議などで地域住民から幅広く意見を聞きながら充実を図る。

(参考) 21 年度の検討体制

地域力指標の構成について検討するため、平成 21 年 10 月に「地域力指標研究会」を設置済み。

< 研究会の構成 >

- 草郷 孝好（関西大学社会学部教授）社会経済開発
- 玉岡 雅之（神戸大学大学院経済学研究科准教授）財政学
- 牧野 松代（兵庫県立大学経済経営研究所長）開発経済学〔統計委員会委員〕
- 勇上 和史（神戸大学大学院経済学研究科准教授）労働経済学
- 与謝野 有紀（関西大学社会学部教授）社会学・社会階層論

< 設置時期 >

平成 21 年 10 月～平成 22 年 3 月

< 事務局 >

兵庫県企画県民部政策室ビジョン課

(検討中の地域力指標の一例)

まちなか機能の集積状況

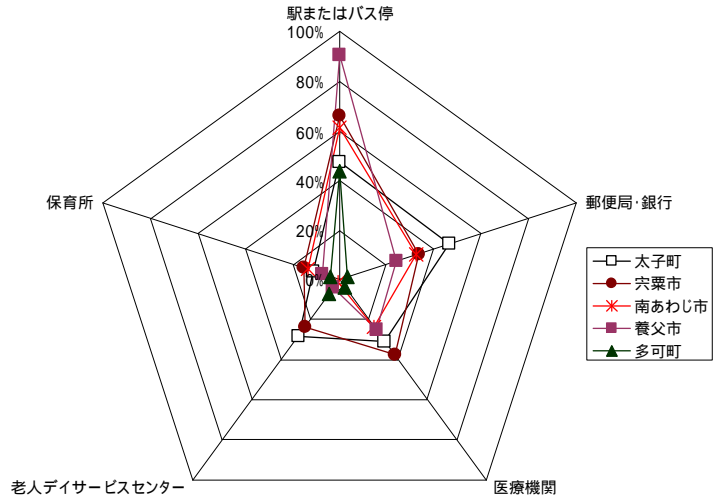
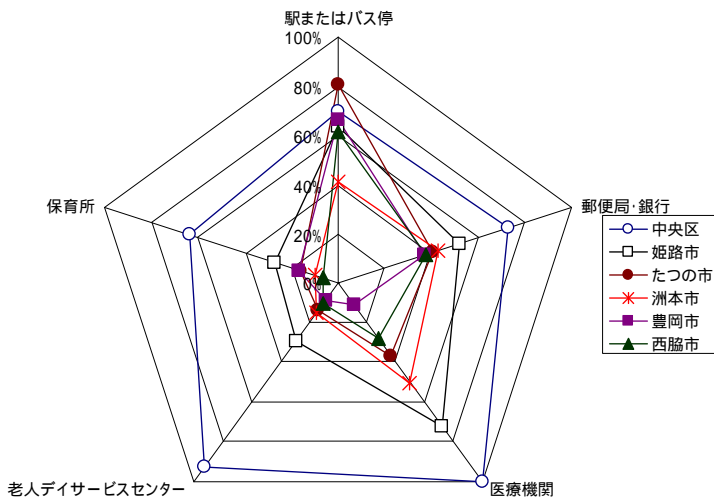
(生活関連施設から 500m 未満に位置する住居の割合 (市町別))

- ・地方都市では全体的に、郵便局・銀行、保育所等の生活サービス機能が徒歩圏内にない住居の割合が高い。これは、車の利用を前提とした都市構造となっているためと考えられる。
- ・高齢化の進行により、車での移動困難者が増加することが考えられることから、まちなかに人口を集める仕組みづくりなど、地域の実情に応じた対策を講じる必要がある。

【圏域の中心都市】

(定住自立圏の中心都市要件を充足する市等)

【中心都市の周辺都市例】



	駅またはバス停	郵便局・銀行	医療機関	老人デイサービスセンター	保育所	得点 (1000点満点)
中央区	69.7%	73.2%	100.0%	92.2%	63.6%	638.5
姫路市	63.7%	52.3%	71.9%	29.2%	26.7%	233.4
たつの市	80.7%	40.8%	36.7%	13.6%	15.9%	135.8
宍粟市	66.1%	33.8%	37.7%	24.1%	14.9%	115.2
太子町	47.3%	46.0%	30.9%	28.3%	11.3%	106.5
洲本市	41.2%	43.1%	49.9%	15.0%	9.6%	104.2
豊岡市	66.6%	36.9%	10.9%	8.8%	16.2%	83.6
西脇市	61.5%	37.5%	28.1%	10.3%	6.6%	82.4
南あわじ市	61.1%	32.4%	23.9%	1.2%	13.1%	71.9
養父市	90.7%	23.9%	25.2%	4.3%	7.3%	71.5
多可町	43.5%	2.9%	3.7%	7.0%	3.5%	6.8

レーダーチャートの五角形の面積を1,000とした場合の、各指標により囲まれた図形の面積を得点として市町別に集計した。
県内各市区町の得点については後掲

出典：H20 住宅土地統計調査（総務省）を
もとにビジョン担当課作成

〔平成 20 年住宅・土地統計調査について〕

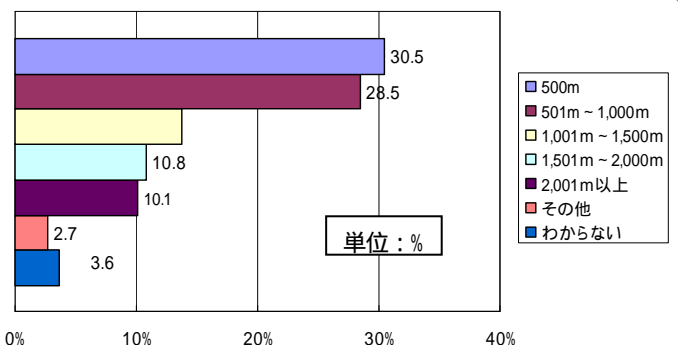
平成 17 年国勢調査調査区を第 1 次抽出単位とし、抽出された標本調査区を基本とする調査単位区内の住戸を第 2 次抽出単位とする層化 2 段抽出法によって実施。

(生活関連施設と住居との距離の考え方)

調査区の中心から最寄りの当該生活関連施設までの距離（道路に沿った最短距離）で判定。

〔500m（距離）の考え方〕

- ・「歩いて暮らせるまちづくりに関する世論調査」（内閣府）によると、70 歳以上の高齢者では、歩いていける範囲として 500m 未満と答えた人が最多であった。（右表参照）
- ・生活弱者、交通弱者にとってのまちのあり方について考える指標とするため、500m を基準として集計を行った。



〔県下各市区町 の得点一覧〕 市川町、神河町は除く

注) 網かけは左にグラフを記載した市区町 は中心都市

	駅またはバス停	郵便局・銀行	医療機関	老人デイサービスセンター	保育所	得点 (1,000点満点)
神戸市全体	65.5%	61.0%	77.8%	49.4%	47.8%	361.6
東灘区	60.7%	74.7%	91.9%	50.7%	72.4%	482.7
灘区	68.2%	75.7%	87.1%	79.2%	67.4%	571.8
兵庫区	65.4%	87.1%	94.3%	75.3%	60.5%	590.8
長田区	65.4%	82.1%	84.2%	69.1%	64.4%	535.0
須磨区	69.7%	53.0%	32.2%	11.2%	34.9%	171.7
垂水区	70.5%	55.2%	76.3%	35.5%	34.2%	288.6
北区	55.7%	38.8%	65.5%	24.1%	25.6%	166.6
中央区	69.7%	73.2%	100.0%	92.2%	63.6%	638.5
西区	66.3%	35.2%	75.4%	37.4%	27.3%	212.8
尼崎市	62.9%	70.0%	94.0%	52.6%	69.5%	478.9
西宮市	61.1%	70.8%	88.2%	45.8%	61.6%	424.0
芦屋市	67.1%	56.7%	85.0%	27.2%	44.3%	302.1
伊丹市	72.5%	62.2%	78.8%	62.1%	36.9%	385.1
宝塚市	63.8%	52.2%	72.8%	47.6%	33.6%	286.7
川西市	68.0%	56.6%	60.0%	36.4%	26.8%	244.5
三田市	73.2%	48.5%	53.1%	0.0%	23.2%	156.4
猪名川町	81.8%	17.8%	0.0%	6.6%	8.8%	44.6
明石市	59.5%	60.0%	64.0%	27.3%	39.3%	251.2
加古川市	50.8%	52.4%	60.0%	47.4%	30.4%	232.7
高砂市	56.1%	41.1%	87.6%	33.3%	29.5%	229.2
稲美町	48.9%	27.8%	22.9%	4.9%	0.0%	42.2
播磨町	44.1%	41.2%	67.3%	24.6%	34.3%	171.9
西脇市	61.5%	37.5%	28.1%	10.3%	6.6%	82.4
三木市	69.1%	35.8%	47.9%	13.4%	16.2%	123.3
小野市	52.6%	37.0%	34.9%	18.7%	11.4%	94.0
加西市	61.8%	20.0%	33.9%	14.8%	9.4%	62.7
加東市	55.8%	20.2%	39.5%	21.2%	8.6%	68.5
多可町	43.5%	2.9%	3.7%	7.0%	3.5%	6.8
姫路市	63.7%	52.3%	71.9%	29.2%	26.7%	233.4
福崎町	77.8%	10.5%	18.0%	4.2%	9.2%	36.6
相生市	77.4%	41.8%	47.4%	1.6%	20.5%	138.3
赤穂市	78.4%	40.9%	46.7%	15.5%	21.2%	156.6
宍粟市	66.1%	33.8%	37.7%	24.1%	14.9%	115.2
たつの市	80.7%	40.8%	36.7%	13.6%	15.9%	135.8
太子町	47.3%	46.0%	30.9%	28.3%	11.3%	106.5
上郡町	64.7%	30.4%	13.4%	9.7%	15.8%	73.7
佐用町	48.4%	33.1%	10.7%	0.0%	6.3%	45.2
豊岡市	66.6%	36.9%	10.9%	8.8%	16.2%	83.6
養父市	90.7%	23.9%	25.2%	4.3%	7.3%	71.5
朝来市	70.3%	39.7%	25.0%	7.5%	11.6%	97.4
香美町	81.4%	39.2%	25.9%	10.4%	8.4%	104.9
新温泉町	60.6%	46.5%	11.5%	5.1%	7.8%	78.5
篠山市	68.9%	31.9%	23.2%	5.7%	3.6%	66.9
丹波市	37.4%	20.7%	2.1%	3.0%	5.8%	21.2
洲本市	41.2%	43.1%	49.9%	15.0%	9.6%	104.2
南あわじ市	61.1%	32.4%	23.9%	1.2%	13.1%	71.9
淡路市	75.4%	48.7%	47.3%	22.5%	15.4%	170.8